

秘

昭和二十年二月

理事官

陸

朝鮮ニ於ケル農業要農制資料

内務省管理局殖産課

研-0656

戰時農業要員の設置ニ就テ

政務總監 談

決戦ノ現段階ニ對處ニ農村ノ稼働スル責務ハ一層加重セラレツツアリマスガ就中戦力増強ノ基礎ヲナス食糧等重要農産物ノ劃期的増産ヲ必期スルコトハ國家ノ至上命令トシテ三百萬農家總躍起シ之ガ完メニ努メテケレバナリマセヌ。

又一面農村ヨリ他部門ニ送出スベキ勞務者モ緊急セル事態ノ要請ニ稽ヘ速急敏速ニ之ガ送出ヲ行ヒ他産業部門ニ貢獻スルコトガ亦極ニテ緊急切ノ時務デアリマス。

大東亞戰爭開始以來農村ニ於テハ克ク時局ヲ認識シ黙々トシテ精勵シ凡ユル惡條件ヲ克服シテ淚グマシイ努力ヲ續ケテ今ワタノデアリマスガ戰爭ノ現段階ニ想到致シマス時人の資源ニ於テモ時又經營上必要ナル肥料其ノ他ノ資材業物的方面ニ於テキマレテモ一層逼迫化スルコトハ他至ノ情勢ニア

リマレテ農業関係者ニ於テ増大シツツアル國家ノ要請ニ應心シテ爲ニハ農業増産戦士トシテ農村ニ殘ル農家ノ奮起ハ勿論特ニ却テ一丸トスル大和共同ノ活動 婦女子ノ積極的農耕從事等ニ於テ一層工夫ヲ凝サテケレバナリマセヌ。從ツテ農村中輔トナルベキ純農家 精農家 農業増産實踐員 技術関係指導者並ニ指導者又ハ中堅農家ニシテ養成中ノ者ノ擔當スル任務ハ全ク重且大デアリ、此等ノ者ノ奮起精勵如何カ農業速急増産ノ成否ヲ支配スルト申シテモ過言デアリマセヌ。此ノ度不府ニ於キマレテハ、此等ノ情勢ニ鑑ミ、農業増産上ノ基本トナル重要ナ地位ヲ占メ、緊要缺クコトノ出来ナイ者ヲ戰時農業要員ニ指定シ、之ヲ徵用及勤勞者ノ斡旋ヨリ除外スルコトト致シテデアリマスガ、要員設置ノ本旨トスル所ハ、前記致シマレテ通景ノ限度ノ必要人員ヲ農村ニ確保シ、之ヲ中核体トシテ重要農産物ノ劃期的増産ヲ必期セントスル意圖ニ依ル

ノアアリマス。指定セラレマシタ者ハ、國家ノ期待スル重責ヲ充
分自覚シ、勤勞者トシテ農村ヨリ勇躍出奔スル人々ノ責務迄分
任シ、一切ノ利害ヲ超越シテ、決死敢闘シ、増産奉公ニ挺身セラレ
ルト共ニ、應徵者及具、他ノ勤勞者ニ於テモ、其ノ重責ニ鑑ミ、新
職場ニ於テ國家ノ要請ニ應ヘ敢闘セラレンコトヲ切望致シ
マス。

農務第一四五號

昭和十九年九月一日

各道知事

殿

政務總監

農業要員ノ設置ニ關スル件

現戰下ノ現段階ニ對シ、朝鮮農村ノ負荷スル責務ハ、主要食
糧等、重要農産物ノ劃期的増産ノ外、農村勞務ノ供出等、頓ニ加重
シ、米リタル處、主要食糧等ノ増産ハ、戦力増強ノ基底ヲナスモノ
ニシテ、之ガ生産途ニ指導ニ當ルベキ者ノ確保、是ヲ固ルコトハ
極メテ緊要ナルヲ以テ、爾今尙分ノ間、別依要綱ニ依リ、農業
要員ヲ設置スルコトヲ相成リタルニ就テ、ハ關係機關緊密ニ連繫
シ、之ガ實効ヲ揚上、方遺憾ナク期セラレタシ

農業要員設置要綱

(一) 方針

食糧其、他戰時重要農産物、刻期的増産ヲ必期センガ為ニハ
却滞ニ於ケル中堅農家並ニ之ガ指導ニ著ルヘキ農業関係指
導者ノ充實確保ヲ固ルコト緊要ナル處、近時農村勞務ハ他部
門ヘ、供出ノ強化並ニ他産業ヘ、自由轉出等ニ依リ減退ノ
一途ヲ辿リ又指導部面ニ於テモ一層陣容ノ整備充實ヲ期
スルノ要アルヲ以テ本要綱ニ依リ農業要員ヲ設置シ質的
ニ優良ナル農家及指導者ヲ農業部門ニ確保シ農産物ノ速
急増産ノ要請ニ應ヘントス

(二) 要領

一 農業要員指定ノ範圍

農業要員ハ左ノ範圍ノ者ノ中ヨリ之ヲ指定スルモノトス

(イ) 純農家ニ於ケル農業経営主(経営主ハ農業経営中心

者ヲリ得アル場合ニ於テハ實際上ノ経営中心者)

(ロ) 積農家及其ノ家族(一宅)

(ハ) 農産増産実践員(一部務仕立者)

(ニ) 指導者(道府郡島邑面農会、金融組合、水利組合及農場
職員)但シ常置技術職員ニ限ル

(ホ) 農業関係学校及農民道場在学中ノ者

二 農業要員ノ指定

農業要員ハ府尹、郡守、島司、内申ニ依リ道知事之ヲ指定スル
モノトス

三 農業要員ニ對スル措置

(イ) 農業要員ハ國民徵用令ニ依ル徵用及一般勞務者ノ斡旋ヨリ
除外スルモノトス

(ロ) 農業要員中離農ノ統制ニ關シテハ別途適宜措置ヲ講ズル
モノトス

四 具、他

- (イ) 要員銓衡ノ為、府郡島ニ銓衡委員會ヲ設置スルコト 委員ハ
- 府郡島及警察署ノ幹部及関係邑面長トスルコト
- (ロ) 農業要員ノ數ニ付テハ本府上院議ノ上決定スルコト
- (ハ) 府郡島ハ農業要員台帳ヲ備付ケ適時之ヲ整理スルコト

昭和十九年九月二日

農商局長
鑛工局長

各道知事 啟

戰時農業要員設置要綱実施ニ関スル件

首題ノ件別途政務總監ヨリ通牒セラレタル處要員ノ設置ニ於リテハ特ニ左ノ點ニ留意相成リタシ

記

一字句ノ解釋

(イ) 純農家

純農家トハ農家ノ世帯員中ニ農業以外ノ業ニ従事スル者ナキ世帯ニシテ農業收入ニ依リ其ノ生計ヲ営ミツツアル農家ヲ謂フ

農家中ニハ耕作ノ外養畜養蚕ノ業務ニ従事スル世帯ヲ

含ミ農業労働ニ依存シ其ノ生計ヲ営ミツツアル所謂賃

労働農家ハ含マザルモノトス

(ロ) 技術指導者

技術指導者トハ農業技術(農業土木ヲ含ム)ニ関スル學術科ヲ修メ技術指導ニ関シ相當ノ実力ヲ有シ農産物増産其他農業ニ関スル指導ノ職務ニ従事スル者ヲ謂フ

(ハ) 精農家

専心農業ヲ精勵シ其ノ邑面ノ平均反別以上ヲ耕作シ邑面ノ平均収量ノ概ネ三割以上ヲ増收シツツアル農家ヲ謂フ

(ニ) 農場トハ概ネ五十町歩以上ノ耕地ヲ經營シ相當ノ施設ヲ為スモノニ限ル

二 要員ノ數

(イ) 純農家

農業日數表ノ專業農家ノ調査ヲ基礎トシ実情ヲ精査ノ上

要綱四、口ニ依リ本府ニ提議スルコト

(四) 精農家

道ノ通ニ 戸以内トスルコト

(八) 農業増産実践員

道ノ通ニ 名以内トスルコト(一部若干平均ニ名以内程度)

(二) 農業技術指導者

道府郡島邑面、農會、金融組合、水利組合及農場、技術職員ハ現在員ニ依ルコト

増員ノ場合ハ要綱四ノ口ニ依リ本府ニ提議スルコト

(六) 農業関係学校生徒及農民道場在所生現任修業中ノ者高

農民道場ハ道及郡農會経営ノモノトシ私立道場ニ付テハ要綱四ノ口ニ依リ本府ニ提議スルコト

三 事務處理

(1) 要員令書

道知事ハ要員ノ指定ニ付テハ指定令書ヲ交付シ解除ニ付テハ解除令書ヲ交付スルモノトス但シ時宜ニ依リ支書通告ニ依ルモ差支ナキモノトス

(四) 要員指定時期及要員台帳

昭和十九年度ニ於テハ直ニ要員ヲ指定シ爾後異動ノ都度之ヲ整理スルコト尚要員台帳ハ連名式トシ純農家ニ付テハ住所、氏名、年齢、耕作ノ種別(自作開墾等)、耕作反別、家族員數、要員任命年月日ヲ、精農家ニ付テハ純農家ニ準ジ実践員ハ純農家ノ記載事項ノ外経営主トシ、續柄、実践員任命年月日ヲ記載シ、技術職員ハ勤務所、官職名、氏名、年齢、最終卒業学校、花職年月日、要員任命年月日ヲ、道場及学校、生徒ハ出身地、氏名、年齢ヲ夫々記載スルモノトス
要員指定ノ資格ヲ二以上有スル者ニ付テハ欄外ニ(純)又ハ(精)ト重複スル旨記載シ置フコト

戦時農業要員十戸指定ノベキ精農家数調

京畿道	一一一
忠清北道	五一〇
忠清南道	八〇五
全羅北道	八四〇
全羅南道	一一九〇
慶尚北道	一一〇〇
慶尚南道	一一三〇
黄海道	九九五
平安南道	六七〇
平安北道	八〇五
江原道	八〇五
咸鏡南道	五九五
咸鏡北道	三四〇

計

一一三〇〇

道名	戦時農業要員 指定スベキ 農業増産実践員数	總部署数	設置人員
京畿道	五、六七五	一一、三五〇	
忠清北道	二、九七〇	五、九四〇	
忠清南道	五、三三六	一〇、四五二	
全羅北道	六、〇一六	一一、〇五二	
全羅南道	八、四七七	一六、九五四	
慶尚北道	五、八六三	一一、七二六	
慶尚南道	五、九二九	一一、八五八	
黃海道	八、四三七	一六、八五四	
平安南道	五、三二五	一〇、六五〇	
平安北道	五、一三八	一〇、二五六	
江原道	四、六〇〇	九、三〇〇	
咸鏡南道	三、三三八	六、六七六	
咸鏡北道	二、九〇七	三、八一四	
計	六八、八八一	一三七、七六二	

農務第一六二號

昭和十一年十月十五日

農商局長
鑑工局長

各道知事

農業要員ニ関スル件

首級要員設置方針ニ付テハ曩ニ改務總監ヨリ通牒セラレタル
處純農家及精農家ノ指定及農業要員ノ徵用關係ニ付テハ左
ニ依リ處理相成リタシ依命

記

一 純農家經營主ノ數ニ付テハ本府ト協議ノ上決定スベキ旨通
牒セル處未ダ提出セキ向ニ於テハ農業増産及供出ト勤勞
勲員トノ關係ヲ考慮シ至急提出アリタシ
純農家ノ經營主ト雖モ農事ニ精勵セザル者ハ指定ヨリ除

外スルコト 尚指定後ト雖モ農事ニ精勵セザルニ至リタル
者ハ指定ヲ解除スルコト

二 農業要員トシテ指定スベキ精農家ハ經營主及其ノ家族
ノ名ニ限ルコト

三 農業要員トシテ指定セル者ニ對シテハ一連年齡層ノ者
ト雖モ徵用ヨリ除外スルコト

昭和二十一年一月二十七日

各道知事 農工商局長

純農家ノ農業要員指定ニ関スル件

首領要員別紙措置要領ニ留意ノ上左ニ依リ指定相成リタシ

純農家中農業要員ニ指定スベキ経営主ノ總數ハ 名以内トスル

農業要員設置ニ関シ特ニ採ルベキ措置

一 指定ノ際特ニ留意スルべき點

(イ) 本要員ノ指定ニ當リテハ今後ノ勤勞動員ノ強化可ルベキ情勢ヲ勘案シ具ノ可能ナル範圍内ニ於テ指定ノ適正ヲ期スルコト

(ロ) 純農家ノ農業要員指定ニ當リ勤モスレバ勞力本位ニ選定スル結果青年層ヲ經營主トスル傾向ナキニアラザルヲ以テ此ノ點ニ付テハ特ニ注意シ指定上過歟ノキ採留意セラレタキコト

(ハ) 純農家ノ農業要員指定ニ當リ農業戸数等ニ依リ一率ニ府郡島及邑面ニ具ノ數ヲ割當ル結果実情ニ合致セザル場合ナギニアラザルヲ以テ指定前經營規模ノ現状、經營主ノ年齢、他農業經營條件等ヲ充分精査シ実情ニ即應スル指定ヲ為ス採留意セラレタキコト

(ニ) 新ニ分家セル者等ニ付テハ特ニ慎重調査シ經營規模及能力等ヲ勘案シテ万已ハテ得ザル者ノミ指定スル採留意セラレタキコト

レタキコト

(ホ) 指定後隨時農業要員ノ臨時檢査ヲ実施シ指示ニ合致セザル者等ハ即時要員ノ指定ヲ取消スル措置セラレタキコト

二 農業要員指導上特ニ採ルベキ措置

(イ) 農業要員ノ蹶起大會等ヲ開催シ之ガ奮起ヲ促スコト

(ロ) 農業要員ノ當農必行行事ヲ定メ之ガ適確ナル実行ヲ期セシムルコト

(ハ) 年數回邑面其、他適當ナル場ニ於テ中堅要員ノ召集指導ヲ実施スルコト

三 農業勞務調整上特ニ採ルベキ措置

(イ) 農繁期ニ於テハ部落共同作業等農村勤勞動員ニ関スル施策ヲ一層計画化シ各村落勤勞ニ徹セシムルコト

(ロ) 婦女子ノ農業勤勞動員ニ関スル施策ヲ一層徹底セシムルコト

(ハ) 学校、農業勤勞動員ヲ一層積極的且組織的ニ実施スルコト

(三) 農機具、後畜ノ部、共同利用ヲ積極的ニ實施スルコト
(ホ) 鑛工部門勤勞者ノ農繁期作業應援ニ付テモ、災情ヲ勘案シ適
宜措置スルコト
(ハ) 都市居住者ヲシテ、勤農隊組織等ニ依リ、農業増産ニ一層協力セ
シムルコト

統農家経営主農業要員指定調査

農業経営主総数

農業要員指定経営主数

道	京畿道	忠清北道	忠清南道	全羅北道	全羅南道	慶尚北道	慶尚南道	黄海道	平安南道	平安北道	江原道	咸鏡南道
	二五三、一七〇	一三七、一六五	二三七、三二九	二四九、四七九	四一八、〇〇四	三三〇、九〇九	三〇二、九七〇	二五〇、八〇一	一七八、六六二	二〇三、二〇七	二二二、九七九	一七八、八六七
	一八七、〇〇〇	八八、〇〇〇	一五三、〇〇〇	一六五、〇〇〇	二四三、〇〇〇	二一〇、〇〇〇	一八一、〇〇〇	二二九、〇〇〇	一三四、〇〇〇	一五二、〇〇〇	一五八、〇〇〇	一五五、〇〇〇

咸鏡北道 七六、五五九

計 三、〇四六、〇〇〇

六、一〇〇、〇〇〇

二、〇九八、〇〇〇

農業要員指定調査 (三〇・一・二七)

区分	農業経営者総数	純農家総数	農業要員指定者	五反寄米満 農家戸数	適正規模農家数	農業経営者総 数に対する割合	純農家総数 に対する割合
京畿	二五三、一七〇	二二二、六六六	一八七、〇〇〇	五六、一九七	一九三、六〇〇	七三・八%	八四・三%
忠北	一三七、一六五	一三四、〇〇〇	八八、〇〇〇	四八、三三七	七九、九六六	六四・一%	七〇・九%
忠南	三三七、三三九	二九九、九三三	一五三、〇〇〇	八三、四七五	二六七、六七七	六四・四%	六九・五%
全北	四四、四七九	二二、三八九	一五、五〇〇	九、四六五	二五、〇五二	六二・二%	七三・六%
全南	四一八、〇〇〇	三七九、八八七	二四三、〇〇〇	一七四、七四三	二八七、八七一	五八・一%	六三・九%
慶北	三三〇、九九九	三一三、八七〇	二一三、〇〇〇	九〇、〇三八	二五七、五八三	六四・〇%	六七・七%
慶南	二〇三、九七〇	二六九、二〇七	一六一、〇〇〇	一一三、四六八	一八五、一九一	五三・一%	五九・八%
黄海	三五〇、八〇一	三三六、六五三	二一九、〇〇〇	二〇、四九五	三三八、六二八	九一・三%	九六・七%
平南	一七八、六六二	一七二、四〇〇	一三四、〇〇〇	一八、九七五	一七八、三二四	七五・〇%	八〇・〇%
平北	三〇三、二七七	一九一、一五五	一五八、〇〇〇	三九、九〇〇	二〇九、七二六	七四・八%	七九・五%
江原	三三二、九七九	一九八、四〇九	一五八、〇〇〇	五七、二〇〇	二一〇、一三四	六七・八%	七九・六%
咸南	一七八、八七七	一二一、四五四	一五五、〇〇〇	五三、三三一	二〇九、〇〇〇	八二・六%	九六・〇%
咸北	七六、五五九	六四、〇九八	六二、〇〇〇	四八、三八	九五、六九一	七九・六%	九五・一%
計	三、〇四六、〇〇一	二、七八一、五九六	二、〇九八、〇〇〇	八一六、四五一	二、四七七、三三七	六八・八%	七五・四%

農業所要勞力及農業要員調

(一) 農業所要勞力調

- 一 農業戸數(昭和十八年)
- 二 農業人口
- 三 農業生産人口(十五歳—五十五歳)
- 四 農業所要人口(十五歳—五十五歳)
- 五 差引過人員(十五歳—五十五歳)

(一) 男	八八五〇八七八人
(二) 女	八九八八三三四人
(三) 男	四四二五四三九人
(四) 女	四四〇四二二九人
(一) 男	二五八二〇一人
(二) 女	二五〇七一六五人
(一) 男	二一〇七三三八人
(二) 女	二〇九七〇六六人

(二) 農業要員調

- 一 農業要員(指立せらるべき者)
- 二 純農業要員

(一) 純農業要員	二二二九三七六戸
(二) 兼業農家	二二二五二七六戸
(三) 兼業農家	二二二五二七六戸
(四) 兼業農家	二二二五二七六戸
(五) 兼業農家	二二二五二七六戸
(六) 兼業農家	二二二五二七六戸
(七) 兼業農家	二二二五二七六戸
(八) 兼業農家	二二二五二七六戸
(九) 兼業農家	二二二五二七六戸
(十) 兼業農家	二二二五二七六戸

備考 本表ニハ農業被痛者ヲ含マズ

農業労働力調査(農業労働力調査資料一)

道名	農業労働力		農業労働人口		農業労働人口(15歳以上)		農業労働人口(15歳以下)	
	男	女	男	女	男	女	男	女
京畿	2,253,361	1,533,361	3,786,722	2,066,722	2,533,361	1,533,361	1,253,361	500,000
关北	1,381,361	981,361	2,362,722	1,362,722	1,681,361	981,361	681,361	280,000
关东	3,453,361	2,453,361	5,906,722	4,906,722	4,253,361	2,453,361	1,753,361	700,000
关西	2,153,361	1,553,361	3,706,722	3,106,722	2,453,361	1,553,361	1,253,361	500,000
中国	1,853,361	1,353,361	3,206,722	2,706,722	2,153,361	1,353,361	1,053,361	400,000
四国	1,253,361	953,361	2,206,722	1,706,722	1,653,361	953,361	1,153,361	500,000
九州	1,553,361	1,153,361	2,706,722	2,106,722	1,853,361	1,153,361	1,353,361	500,000
計	13,853,361	9,853,361	23,706,722	19,706,722	17,553,361	9,853,361	13,853,361	5,000,000

備考一 農業労働人口ハ全解平均五八二二人ナリ

二 農業労働力ハ昭和十八年不現在ナリ
 三 農業労働力ハ一年間ノ耕種・管理ニ要スル總所要労働力ニ農業経営上必要ナル家事労働力(〇三)ヲ加算シ算出セリ

耕地一町(約一町)ノ農業労働力ハ南解五二五人(完全労働力換算人員)中解三九二人(〇一)西北解二二八二人ナリ

四年間農業總所要労働力中男子労働力ノ割合ハ〇三六、女子労働力ノ割合ハ〇四四トセリ
 五年間ノ農業總所要労働力中男子労働力ハ三四四、〇〇〇トセリ

六 農業總所要労働力中一五、一五五、〇〇〇トセリ、占ムル割合ハ男子〇七五、女子〇八ナリ
 七、一五、一五五、〇〇〇トセリ、男子労働力ハ〇九五、女子ハ〇八ナリ

農家戸数表(農業委員設置資料ニ)

道名	農家数	専業	兼業	自	小	小	小	兼	専	専	専
北海道	1,285,000	54,000	1,231,000	1,231,000	1,231,000	1,231,000	1,231,000	1,231,000	1,231,000	1,231,000	1,231,000
東北	1,772,000	14,000	1,758,000	1,758,000	1,758,000	1,758,000	1,758,000	1,758,000	1,758,000	1,758,000	1,758,000
関東	3,510,000	12,000	3,498,000	3,498,000	3,498,000	3,498,000	3,498,000	3,498,000	3,498,000	3,498,000	3,498,000
中部	2,810,000	11,000	2,799,000	2,799,000	2,799,000	2,799,000	2,799,000	2,799,000	2,799,000	2,799,000	2,799,000
关西	2,540,000	10,000	2,530,000	2,530,000	2,530,000	2,530,000	2,530,000	2,530,000	2,530,000	2,530,000	2,530,000
中国	4,000,000	9,000	3,991,000	3,991,000	3,991,000	3,991,000	3,991,000	3,991,000	3,991,000	3,991,000	3,991,000
四国	1,100,000	8,000	1,092,000	1,092,000	1,092,000	1,092,000	1,092,000	1,092,000	1,092,000	1,092,000	1,092,000
九州	2,200,000	7,000	2,193,000	2,193,000	2,193,000	2,193,000	2,193,000	2,193,000	2,193,000	2,193,000	2,193,000
全計	16,800,000	70,000	16,730,000	16,730,000	16,730,000	16,730,000	16,730,000	16,730,000	16,730,000	16,730,000	16,730,000
専業	1,200,000		1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000
兼業	15,600,000		15,530,000	15,530,000	15,530,000	15,530,000	15,530,000	15,530,000	15,530,000	15,530,000	15,530,000
自	1,200,000		1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000
小	1,200,000		1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000
小	1,200,000		1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000
小	1,200,000		1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000
兼	1,200,000		1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000
専	1,200,000		1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000
専	1,200,000		1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000
専	1,200,000		1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000
他	1,200,000		1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000
専	1,200,000		1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000
兼	1,200,000		1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000
専	1,200,000		1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000
兼	1,200,000		1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000

備考 本表ハ農業実態調査(昭和十九年二月完了)ノ結果ニ依ルモノニシテ總戸数ニ於テ世帯戸数ト若干ノ差アリ

耕地廣狹別に數(農業要員設置資料三)

道名	五反未満	五反以上十反未満	十反以上二十反未満	二十反以上三十反未満	三十反以上四十反未満	四十反以上
京畿	五六一九七	六九八五二	七二一八七	三八四一九	一三、四四七	一、四四六
忠北	四八、三三七	四四九五六	三、〇一五	一〇、四〇五	一、四〇八	五六
忠南	八四、三五六	七、一三八	四、六四三	八、七八六	三、一三六	五三三
全北	九、四九五	七、五七九	四、六五七	一、六三三	五、八三七	一、一三一
全南	二、九三三	九、四九一	四、六五三	一、四九六	五、五六〇	一、八三四
慶北	九、〇三八	一、九八六	九、八七六	一、七八三	三、四二〇	二八一
慶南	一、五九三	一、〇五二	五、五〇〇	一、六三五	三、八六五	五〇六
黄海	三、〇四九	三、九七〇	七、一七八	七、三八三	三、六四一	七、六三六
平南	一、八九七	三、〇九六	四、三三三	五、四九三	三、五〇八	四、九七二
平北	六、四二六	六、四六〇	八、七三三	五、五九五	三、六三三	六、三三三
江原	五、七三〇	六、四三〇	五、六八八	三、四六三	一、六三三	一、八一七
咸南	三、六六一	四、八三三	五、三九五	四、五四〇	二、四二五	六、〇六四
計	四八、三八	一、〇一六	一、七八一	二、三八四	一、七〇四	四、四七六
	八、九六、七七八	八、三三、一八七	七、九一、九九九	四、〇、四五九	二、七、八七六	三、三、〇三七

備考 本表は農業実態調査の結果を依りてなり

地主及農業設備者數(農業要員設置資料四)

地主數

農業設備者數

道	地主數	農業設備者數
京畿道	七、二〇二	九、六八一
忠清北道	不詳	六、三〇一
忠清南道	不詳	九、三九八
全羅北道	三、〇八三	二、五八七
全羅南道	不詳	二、八五三
慶尚北道	一、三、七九三	七、二〇一
慶尚南道	四、五二八	一、四一〇
黃海道	一、二八一	七、八九一
平安南道	八、三二〇	二、八九四
平安北道	九、四九〇	三、五二〇
江原道	五、三七四	八、六七九
咸鏡南道	七、八六二	七、七九八
咸鏡北道	不詳	三、三四
計		一三、一三〇

道別可要勞力調査(農業要員設置資料五)

道	耕地面積	一町可要勞力	總可要勞力
京畿道	三、八五、三七九	三九〇	一五〇、三五八、〇〇〇
忠清北道	一、五九、九三一	三九〇	六三、三七三、〇〇〇
忠清南道	二、五二、五一五	五九五	一、九二、五三〇、〇〇〇
全羅北道	二、四七、五八四	五九五	一、一七、五〇五、〇〇〇
全羅南道	四、三二、八〇六	五九五	三、三三、三〇〇、〇〇〇
慶尚北道	三、八七、〇七五	五九五	一、九八、八二八、〇〇〇
慶尚南道	一、七七、七八六	五九五	一、四三、〇五九、〇〇〇
黃海道	五、九六、六七一	三四〇	二、〇〇、七〇一、〇〇〇
平安南道	四、四三、五九九	三二七	九六、六九九、〇〇〇
平安北道	五、二四、八八九	三二七	一、一三、七七一、〇〇〇
江原道	四、三三、三六八	三九〇	一、六三、九〇四、〇〇〇
咸鏡南道	五、三三、五三三	三二七	二、二九、八九四、〇〇〇
咸鏡北道	三、九三、三三八	三二七	五、一九一、三三三
計	四、八八、八五四	三八一	一、七、八八八、〇〇〇



本年の食糧事情

手放しの樂觀禁物

大東亞戰爭勃發以來四年目の本年の食糧事情に關しては、今次帝國議會において熱心な論議が展開されたが、農商大臣も議會において絕對不安なしとは斷言せず、手放しの樂觀は絕對排すべく、今後の眞摯な努力により不安なきを期すべしと答辯した。

まことに大東亞戰爭勃發以來の苦しい事情にあることは否めない状態である。即ち今年の食糧事情は眞に國民一致の總努力の結集によつてこれを乗り切らねばならないのである。元來内地においては年々千三、四百万石の米が收穫され、これに外地米(朝鮮米及び暹羅米)が約一千万石前後移入され、この兩者を中心としてその他、一部外國米の輸

入等によつて、需給の均衡を保つてきたのであるが、大東亞戰爭開始以來、戰局の推移の變遷と外地における米の不作、或いは需量の増加に基づく米の輸入の減少の結果、これを補填するため内地における麥類、諸類の増産による米穀代替の強化、並びに滿洲國からの大豆、高粱、玉蜀黍等の輸入増加を圖り、以て主食に充當してきたのである。

以上のやうな推移を辿り、今日まで年々増大する需要を賄つてきたわけであるが、本年の食糧事情についてみれば、その供給の大宗である昨年産米が豫想を要切り、その實收高は必ずしも良好ではなく、平年を下廻ること必至の狀態であり、しかもまた外地に

寄ける米作も朝鮮、臺灣とも不良であつて、ひとり滿洲國のみ一昨年に引續き豊作をみたのである。しかして外地米、滿洲雜穀を輸送するためには相當多量の船腹が必要なのであるが、戰局の推移は船腹事情にも影響を與へつたのである。殊に鐵、石炭その他、直接の戦力物資輸送確保のためには極力食糧の自給強化を圖り、以て貴重なる船腹を割愛せねばならない状態である。即ち今年の主要食糧の供給力は内地米、外地米とも昨年に比較し相當減少を示してをり、且つまた滿洲雜穀についてはこれが輸送力たる船腹に不安があり、所期の數量を確保し得るや否やにつき、今後問題が残されてゐる状態である。なほ麥類、諸類については、増産の面においては昨年以上に相當の期待を持ち得るとするも、食糧として供給される面においては全體として昨年程度の供給力の確保は前途に相

當の困難が横たはつてゐる。これに對して需要の面においては年々の人口の自然増加を始め、國民皆勤のいはゆる根こそぎ動員の計畫、或ひは晝夜を分たぬ勤務の強化等に基づき、當然に増大するのみならず、一方第一線に敢闘しつゝあり、または國土防衛に任じつゝある陸海軍將士に對するいはゆる軍需米は、兵力動員と相俟つて増大しつゝあり、一面において不要不急部面の壓縮全般、或ひはいはゆる幽霊人口等の徹底的整理を行ふも、なほ昨年の需要に比較し或る程度の増加はやむを得ないのである。従つて今米穀年度の食糧事情を不安なき状態に置くためには、さらに一段と國內供給力の増強を期すると共に、他面、需要部面においては重層的なる配給を計畫し、最も有効適切なる消費を企圖し、以て國內における自給自足体制の確立へと官民一致して邁進せねばならないのである。前述のやうに昨年産米の實收高は當

初の豫想に比し相當の減收を示してゐるので、その結果、昨年五月にはゆるる事前割當制度に基づいて行つた供出割當數量につき、水害、旱害その他により相當大なる減收をみた地方に對しては、一部供出割當數量に關して減免補正の措置を講じたのである。たゞ、一部地方においては割當當時の見込數量以上の收穫を挙げ得た地方もあるもので、政府としては本年の食糧事情に鑑み供出割當數量はもろろん、更にでき得る限りの超過供出を期待せざるを得ないのである。戦局が現状の如き段階に立ち至つた以上、我々は事前割當は追加供出をしないといふやうな過去の経緯に拘泥することなく、この國難を突破するといふ新しい意氣込で供出に最善の努力を盡すべきであり、このことは作況の良好なる地方についてはもろろん、作況不良にして減額した地方についても要請されて然るべきものであらう。

農家においても年々米の供出のみならず、麥類、薯類等においてもその供出が強化され、その結果、保有量も減少し、彈力も少くなつてきてをり、まことに苦しい事態に置かれてゐるわけであるが、一面農家としての責任は食糧を増産し、直接これを戦力化するために供出することなければならぬのであつて、苦しい中から一俵でも一石でも多くを供出することが、決戦下、重大關頭に立つ我が國の農家の唯一の皇國への御奉公である。供出された米は國土防衛と米英撃滅に日夜激闘されてゐる第一線將士の食糧となるのであり、また航空機、船舶、鐵、石炭その他あらゆる戦争に直接間接に必要な兵糧資材の生産に日夜奮闘する人々の糧となるのである。

米の供出が少ければそれだけ戦力は弱まるのであり、逆に供出が多ければそれだけ戦力は強化されるのである。最近までの昨年産米の供出状況は昨年

に比較し、また政府の期待するところを比して甚だ残念なことではあるが、好成績とはいひかねる状態である。もろろん收穫期における天候不良、麥播その他による勞力の不足等いろいろ理由は挙げ得ると思ふが、理窟を並べてゐたのでは戦争に勝つことはできない。戦局は急調子で進展してゐる。米の供出が遅くは負けである。この際一刻も早く米の供出を完遂し、次ぎの責務を全うすべく進んでいただきたいものである。

麥類については毎年増産計畫遂行のため官民挙げての努力が拂はれてきたのであるが、昨年秋播の麥については播種期の天候不良等が禍ひして、播種の適期を逸した地方が相當あつたことはやむを得ざることは、まことに遺憾なことであつた。しかしながら前述したやうに、この麥の増産確保と供出の完遂とは非常に重大な農村の責務であり、たとへば適期播種を逸し、金肥は減配されると、是が非でも達成せねばならぬものである。今年も昨年以上に麥類を綜合配給用として米の代りに一般消費者に配給せねばならぬのであつて、これができるか否かは一に懸つて今後の麥の増産如何にある。勞力不足の折柄、まことに御苦勞なことではあるが、今後の肥培管理の徹底によつて今までの遅れと本年の悪條件に打ち克つていただきたい。

右の麥と並んで馬鈴薯、甘藷の増産もまた食糧の國內自給強化のためには非とも完遂せねばならない重大問題である。殊に甘藷については戦争遂行上、緊急不可欠なる液體燃料の主原料であり、その増産が達せられないならば主要食糧の供給にはもろろん、飛行機の燃料にも直ちに影響してゐるのである。しかし甘藷は昨年度分の供出を完了して貰ふことを取敢へずお願ひする次第であるが、このみでは足りないで、今年甘藷の大増産對策の遂行とこれが早期供出によつて、増産期を救ふことを是非とも實行しなければならぬ情勢にある。

従つて薯類の増産に關しては今や國を挙げてあらゆる努力を傾注してゐるのであるが、要はこれが生産を速め、供出を行ふ農業者諸君がこの國を舉げての要請に應へて難關を突破してくれ、か否かにあるのである。

以上のやうに米、麥、薯類等すべて生産者の方々に眞剣なる努力を願ひ、苦心を拂つていただかねばならぬので

ある。殊に前述したやうに、満洲においては昨年引續き豊作ではあるが、これを内地まで輸送するためにどうしても相當の船腹を必要とするわけであり、しかもその船腹にも戦争遂行上、絶対必要な重要物資を輸送するため食糧に廻し得る数量には限度がある。且つ今後の戦局の推移によつては満洲に期待することなく、全く国内において自給自足を圖らねばならぬことを考へれば、生産者、供出者各位の責任は極めて重大であり、この秋を逸して國に盡すの時期はないといへるのである。

右のやうに生産供出の面においては國を挙げての總努力が拂はねばならぬのであるが、このやうにして生産され、供出された貴重な食糧も、適正かつ円滑に、必要な時期に必要な場所に輸送され、また加工されなければ眞の供給力とはなり得ないのである。しかも本年のやうに需給事情に餘裕のない場合には、送の迅速と加工の円滑化と

は極めて重要な問題であり、殊に麥類の加工については満洲雜穀の加工とも競合し、且つまた時期的には七月から十月までの四ヶ月間に主として集中される關係上、加工業者の方々にも本年は例年に倍した努力を傾けていたかねばならないのである。この麥の加工に關聯してこれを円滑迅速に、且つ多量に行ふには、どうしても麥類の早期供出を確保せねばならぬのであつて、甘藷の早期による早期供出と共に、本年の特殊事情として、特に生産者の方々の協力を要望したのである。

本年度の食糧事情に鑑み、前述したやうに政府としては極力主要食糧を重點的に配給すると共に、他面、壓縮し得る部分は最大限にこれを節約する方針であり、従つて消費者の方々においても、この際無駄を排し、消費を節減し、また手続の行違ひ等に基づくものが多いと思はれるが、いはゆる節儉人口に於ける二重配給、或いは強強半給等の詐稱

に基づく不當なる配給等は、自發的に徹底的に根絶を期していただきたいのであつて、町會、隣組等においてはこれが不正を是正するため、極力努力していただきたい。殊に工場その他における現場給食關係については、一部方面において種々論議せられてゐるやうに、現場給食の方法その他、必ずしも適切ならざるものがあるやうであるが、この際貴重な食糧を有効適切に給食し、その間、遺憾なきを期したいものである。もちろん晝夜二交替制の實施その他、或いは副食關係等から、なかなかこれが運営には難かしい點も多々あることは豫想されるが、特に重點的に工場、事業場方面に特配を實施してゐる趣旨に鑑み、現場給食の適正なる實施に努めなければならぬ。

最後に本年度の食糧事情としては、前述の如く七月以降の麥類及び雜類に非常によく依存せねばならぬ事情にある。しかし現下の輸送事情等を考慮

するときは、麥類、雜類等を極力産地及び近接消費地において消化せざるを得ない實情にある。また満洲雜穀についても同様に入津地並びに加工地とその近接消費地に供給せられることとなる。従つて右の地方においてはこれら雜穀、雜類等の混食等は七月、十月乃至十二月の間は相當高まることと豫想せられるのであつて、消費者の側においては今からその心構へを持つて創意と工夫により、混食割合が多くなつても、これに堪へていただくかねばならぬのである。政府としては可能な限度において混食割合の平均化とその低下に努力を傾注してゆくこと勿論であるが、消費者の方々においても戦時下の食生活として、これに打ち克つていただきたい。

いづれにせよ生産者も消費者も打つて一丸となり、この決戦下の多難なる食糧戦に體當りて突進し、これに勝ち抜いていただきたいのである。

(農商省食糧管理局)

決戦生活

茶は食用しに値ひます。茶は最大消費品として重要であり、戦時下の生活に於いては、最も重要な食糧品であるといふことができます。戦時下の生活に於いては、茶の重要性は、その消費量の多さから見て、國民生活の上、重要な役割を持つことが明らかになりました。特に茶の消費量の多さから見て、國民生活の上、重要な役割を持つことが明らかになりました。特に茶の消費量の多さから見て、國民生活の上、重要な役割を持つことが明らかになりました。

茶

茶は食用しに値ひます。茶は最大消費品として重要であり、戦時下の生活に於いては、最も重要な食糧品であるといふことができます。戦時下の生活に於いては、茶の重要性は、その消費量の多さから見て、國民生活の上、重要な役割を持つことが明らかになりました。特に茶の消費量の多さから見て、國民生活の上、重要な役割を持つことが明らかになりました。

(農商省食糧管理局)

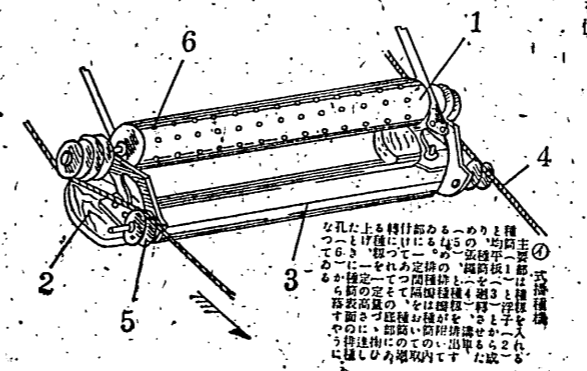
用ひずして床を掃へて播種し、油障子を用ひずして夜間は寒さは延に避けて、寒気を防ぐのである。材料は得易く且つ作業も容易であつて、しかも稲苗の生育を促進することができ、従つて普通苗代に比し田植時期を著しく早めることができ、稲作は安定して増収する。本施設は温床苗代と共に各県対策として採り上げられたもので、二十年度新たに建設二百万円を追加計上し、種々の製作費に對し坪当り平均一円を助成する。

(三) 共同苗代設置(新設)

共同苗代は健苗を育成する最も有効なる方法である。最近、農業経営の中心である農村青年男子は減少し、農業従事者はかつて増加する傾向の著しいものがあるため、やむを得ず育苗技術は退歩し、作業は粗放に陥り勝ちである。よつて本年より全面的に共同苗代の設置を奨励し、部落内の育苗技術に最も練達な農家を苗代管理人に委嘱し、苗代の設計はもろもろ、播種、排水、病害虫防除等につき終始熱心なる管理を加へて、一舉に苗代の改善を實現し、全部落の苗を農家の健苗の水準にまで向上せしめんとするものである。なほ共同苗代の設置に當つては、徒らに大面積に走るを慎み、およそ部落内隣保班単位程度の規模とする方が苗代の選定も容易であり、且つ管理も周到を期し得られよう。本施設は二十年度新たに建設八百万円を追加計上し、管理人手當として苗代一段歩當り平均十円を助成する。

(四) 播種苗代の奨励

播種機を使用する播種苗代は農家改善困難であつた苗代の改良、海播、均播等を一舉に解決し、健苗育成上その効果極めて顕著なものであり、既に西諸地方においては相當の普及をみづかひがあるが、今回さらに全国的に急速に普及を図ることとし、中央農業會に百万餘円の補助金を交付しての式播種機二万架を購入せしめ、これを都府縣農業會を通じて市町村農業會に無償にて交付し、部



落農園等共同利用に供することとし、努めて共同苗代において使用し播種機の利用率を高めて貰ひたい。

三、栽植密度の増加

栽植密度の増加は肥料不足対策として、苗の育成と共に最も効果ある方法である。既に先年來これが實施については種々なる施設を講じ、且つ指導に努めてきたが、未だ新期の目的を達してをらぬものが多い。肥料、特に密播肥料の減少の著しい見込の本年稲作においては、栽植密度の増加を徹底的に行ふのでなければ、段當り収量の維持は恐らく困難ではないかと思はれる。即ち従來の坪當り株数に比し、少くとも二割程度の増加が必要である。また既に株数の増加せるもの、或は努力關係で困難なもの等は、一株苗数を増加する方法を講ずる。なほ田植の遅れたものは特に栽植密度の増加が必要である。

四、除草の勵行

農作における努力の不足の結果、管理は粗放に陥り、従つて除草の手を抜く、

五、種籾準備貯蔵

水質、旱害、冷害等の諸災害の應急対策及び臨時應急増産計等の緊急用途に備へるため、水稲四万四千石、陸稻三千石計四万七千石を貯蔵することとなり、且下政府で収買中である。

六、肥料の自給強化

農作における努力の不足の結果、管理は粗放に陥り、従つて除草の手を抜く、

七、稲作肥料の重點的施行

稲作の重要性に鑑み、肥料制當数量の決定に當つては、従來特別の考慮を拂つて来たが、いふまでもなく稲作に供給せられた肥料は、必ずこれを稲に施用し、若くも他の用途に轉用するやうなことは絶対にあり

本年一月乃至七月間に供給せられる肥料の量は、一月乃至二月の月極めを以て配給されるものすべて前代肥料として配給し、糖苗の育成を期せねばならない。

ば、主たる原因は土壌中の無機成分、特に硝酸の濃縮(糖苗の生育に有利)と、土壌中の有機物の減少(糖苗の生育に不利)に原因がある。このやうな土壌の更新の方法としては、山土の客土が最も有効であることが実証された。

徒による病害虫防除、乙種増産隊の動員計画、防除用資材の準備等を行つて、計画的にも機動的にも迅速に活動し得る防除態勢を絶対に必要とする。

八、施肥法の改善

施肥法を改善し肥料の效力を最高度に發揮することは最も重要なことである。従つて、硫酸等、速効性窒素肥料の併用、肥料の調製、適量肥料の施用(例へば秋播地帯には、硫酸を併用し、また石灰はついでに水田には石灰粉を併用して消石灰、即ち肥料用石灰を施用する如く)、地方によつては完全堆肥の追肥(いはゆる挿肥)等、従来行はれた各種の試験研究調査等の成績を照らし、急速に施肥法の改善を行はねばならない。

病害虫の被害による米の減損は年々巨額の敷に上つてゐるが、これの防除対策としては防除態勢にみる如く、病害虫防除施設を整備して、その活発な活動によつて病害虫の襲来を早期に豫知、或は発見して必要に應じ直ちに総員防除配置につき、時期を逸せず撲滅せねばならない。

これらためには、農林省を中核として、農業者部支部、市町村農業者及び部落増産班等に組織される病害虫発生監視員を以て監視網及び情報網を整備する。これと共に共同防除隊の編成及び訓練、農兵隊及び學

九、老朽化水田土壌の更新
 田圃水灌に對し、秋播または「相腐れ」等と稱する腐敗が顕著に、米穀増産上の大なる支障となつてきたが、最近の研究によれば、

正に擧げられたのである。
 では、なぜ甘藷の大増産が期待されるか。また十九年度に比べて、一倍乃至三倍の増産が目標設置でき、突如目標として擧げられてゐるのか。

以上、簡単に甘藷大増産に期待する所以を説明したが、しかし、といつて各々の立地条件があり、米はわが國食糧の大宗である。

燃料に食糧に甘藷の大増産

甘藷大増産が期待される所以は何か

先頃の閣議で二十七億貫の増産達成の決定をみた甘藷は、航空能力の増強と食糧の自給強化といふ刻下至上命令の二つながらを負擔されてゐる。即ち航空機を飛ばす液体燃料原料として、或は食糧作物のうちまた、増産の余力を持つてゐる作物として、甘藷二十七億貫の増産は、是が非でも完遂せねばならないのである。しかし一口に二十七億貫といへば何でもないやうなものであるが、これは昭和十九年度に比べて、面積で約二十万町歩(約六割)、生産量で約十五億貫(約十三割)約二倍半の増産といふ實に容易ならぬ数字なのである。農國の興隆を決すべき現職局下、農國農村に於ける

ら、農國刻下の危急に際して特に甘藷に大きく期待されるものがあるのである。
 甘藷は一部農家が千貫でも二千貫でも獲れると發表してゐるやうに、適地に適品種を植る栽培法を改良すれば、全國の甘藷作段當り収量を二倍、三倍に引き上げることは決して不可能なことではないのであつて、既に優良多収品種として「相腐れ」一號、「三號」四號または「國産」(爲四四號)或は「沖繩」一〇〇號等も、二十二年來、急速に普及してゐるから、これらを適當に配種すれば、優良多収品種の眞價を十分に發揮し得られないことは絕對にないのである。

以上、簡単に甘藷大増産に期待する所以を説明したが、しかし、といつて各々の立地条件があり、米はわが國食糧の大宗である。

ことに頼りはないのであるから、米穀の増産を第一義とすることは当然であつて、糖類その他、種々の條件を考慮し、その一部を甘藷に轉換しようといふのが今回の増産計画においても見送してはならないところなのである。

甘藷二十七億貫増産達成の方策は

昭和十九年度の増産目標として、甘藷の増産を一舉に二十七億貫とする今年度の甘藷増産は、實に容易な努力を要する。もちろん、ごく小部分の農家の如く、段取り千貫、二千貫と種れるならば極めて容易ではあるが、全園それ、條件異なる甘藷作の全部がさうであるわけにはゆかない。

たゞ理想的な最高の増産量は認めにくくとも、相當量の増産は可能なのであるから、特設育苗圃の増産等、育苗の改善と栽培法の技術改善を個々の栽培者まで浸透徹底させることによつて、従来の甘藷作の段々を増加する一面、また努力、資材等極め

て精進なきではあるが、平地丘陵地、荒地の開墾、或は一部陸田、小豆等の甘藷作への轉換等による作付面積の増加、更には東部局の積極的な協力により、一部軍用地等の甘藷作への開放などにより、五十四万八千六百畝の増産面積を確保、これより「甘藷二十七億貫」の増産を確保するに十分な努力を要する。

増産の基礎は種苗の確保

開墾等の面積は開墾事業の進捗の如何により、甘藷の作付時期までには必ず完成せねばならないのである。そして、これらの新開墾や轉換陸田面積を含めての作付面積を確保するには種苗の確保、或は甘藷苗の豊富なる生産がこれを決定するのであるから、二十七億貫の甘藷増産の成否は、一にこれに懸つてゐるとしても過言でない。

種苗の供出と横流れの防止

一 責任者の確保と十分な苗を作るための準備が完了したならば、二十七億貫増産目的の大半は達成したことになる。その後の準備、栽培法の技術改善等については、後の機会に譲るとし、今回は特に種苗の確保と苗床の十分な準備を完了するために、農業者はもとより、農協、青年團、青少年團、日婦その他、各種團體の強力な協力と農協維持の立場の下、農家各位の皇國農魂の一層の奮起を期望してやまないものである。(農商省農政局)

こととなつてゐる。

皇國の存在を決する重大なる現職、直接戦力となる甘藷二十七億貫の増産達成の根柢となる種苗の供出に、農家各位の愛國の至情に期待してやまないものである。

なほ昨年の事例により、特に付け加へたいことは種苗の伏込期の積流しについてである。青物の多枯れ時であり、食味からして一番美味しい貯蔵甘藷ではあるが、今まで貯蔵された甘藷は全部が種苗であり、二十七億貫の甘藷が約束されたものであり、種苗を確保する戦力の基となるものであるから、養護作兵衛の例に待つまでもなく、買出しその他により一時の口腹の満足のため、大切な種苗を食つてしまつて戦力を低下せしめないやう、國民の大なる自軍を願ひたいのである。

なほこの點については、既に食糧管理法第九條、食糧管理法施行令第十條の四の規定に基づいて、各都府縣ともに都府縣令を以て嚴重な制限を行つてゐるはずであるから、もし違反した場合は重罰を受けること

となる。

健苗を豊富に作る

増産面積に相當する種苗の確保が確保された。次ぎには現行に植えられる苗、しかも丈夫な苗、苗が豊富に生産されねばならない。特に二十七億貫の増産のために開墾される面積、或は軍用地等に新たに甘藷を作付するために増加する面積が相當であるから、割當された面積以外に種苗材料、床土等の準備を迅速に取進め、一坪でも二坪でも従来より一層苗床を増設して、少しでも多くよい苗の生産に努めて欲しい。このためには政府としても、町村内に集團した特設育苗圃の設置を奨励助成し、部落、隣保班内には個人または共同による共同育苗圃の設置を奨励助成し、町村の責任において、或は部落隣保等の共同責任にて、それ、それ、その都府縣の指圖に従つて苗床を作り、十分に苗を作つて欲しい。苗の價格についても相當額の値上げが實施されるはずであり、もし苗が

豫定以外に出来過ぎた場合にも、相對困難でないやうに政府が責任を以て処分するのであるから、餘るほどのよい苗を十分作つて欲しいのである。

以上、種苗の確保と十分な苗を作るための準備が完了したならば、二十七億貫増産目的の大半は達成したことになる。その後の準備、栽培法の技術改善等については、後の機会に譲るとし、今回は特に種苗の確保と苗床の十分な準備を完了するために、農業者はもとより、農協、青年團、青少年團、日婦その他、各種團體の強力な協力と農協維持の立場の下、農家各位の皇國農魂の一層の奮起を期望してやまないものである。(農商省農政局)

昭和十九年度 情報局國民映畫選入選作品	
一、情報局選入選作品(金賞)	山本嘉次郎 軍作式
二、情報局賞(銀賞)	山本嘉次郎 軍作式
三、情報局賞(銅賞)	山本嘉次郎 軍作式
四、情報局賞(木賞)	山本嘉次郎 軍作式
五、情報局賞(草賞)	山本嘉次郎 軍作式
六、情報局賞(花賞)	山本嘉次郎 軍作式
七、情報局賞(果賞)	山本嘉次郎 軍作式
八、情報局賞(葉賞)	山本嘉次郎 軍作式
九、情報局賞(實賞)	山本嘉次郎 軍作式
十、情報局賞(種賞)	山本嘉次郎 軍作式



戦略爆撃

敵アメリカはB29を以て第一十航空隊を編成して、インドから支那東地を経て、或ひはマリアナ基地から本土に滿洲に本格的な空襲を敢行してゐるが、これは航空作戦の中のはゆる戦略攻撃と稱するものである。戦略攻撃は、時には政治攻撃と稱へられることもあるが、その目的とするところは主として敵の政治上の、或ひは軍事上の要地に、または軍需生産などの中樞部に對して攻撃を加へることである。すなはち、この攻撃によつて敵の各種機能を停止せしめ、または重要資源を破壊し、その作戦遂行能力を喪失せしめることができるし、或ひは敵國民に對して精神的にも物質

的にも不安動搖を助長促進し、國民士氣の破壊によつて、戰爭の達成を容易ならしめようとするのである。これがため、その目標とか目的はその當時の情勢によつて選定されるのである。單に都市であるとか軍需工場とかに限定されるものではなく、例へば鐵道や海運施設や重要道路、特に橋梁なども選定されるのである。敵のB29は當初は一定の目標を定めて來襲して來たが、わが防空部隊の果敢な迎撃のため徒らに損害が多發し、効果がこれに伴はないことを知るや、今や短期決戦を焦り、名古屋、帝都、神戸等に對して無差別爆撃を敢行してきたのである。

本来は戦略攻撃は單獨に計畫されるのではなく、航空軍艦隊の編成と調動と關聯してゐるのであり、歐洲のやうな核兵器國では、開戦と同時に敵の準備未完成に乘じ實施されることも當然考へられるところである。また、戦時が長期に亘る場合も採用される戦法である。長期戦の場合には敵國の状況、特に國家組織、民族性によつて差異もあるが、歐洲方面で實施されてゐるが、夜に亘り連続攻撃を行ふ場合が多く、これにより敵國民の民心を震撼し、その振戦運を醸成せしめようとするのが狙ひである。そのために攻撃時期や攻撃方法には慎重な考慮を必要とするのである。現在敵アメリカが日本に對する空襲で實施してゐるやうに、徒らに威力の少い攻撃を反復することは、全然効果が正反對となる場合もある。すな

は、B29は長距離航行距離を有してはゐるが、日本を空襲するためにはその搭載量の殆んど全部が燃料で、帰還または燃料は僅かに二トン内外に過ぎず、これでは徒らに本土の防備を強化し、精神的訓練に資するばかりである。

はこの感激に止るに止まれぬ半島の事情である。

宣言

皇政府ハ朝鮮在住民ニ對シ政治待遇ニ關スル飛騨事項ヲ調査審議スル爲メ内閣ニ調査行方ヲ決定スルニ付閣議決定 見ルニ至リタルハ之

昭和二十年一月十七日

處遇感謝總隊起全隊大會

奮起した半島は、代表者を内地に送つて謝意を表明する一面、此の宣言を實踐に移すべく、處遇改善趣旨の徹底を圖ると共に、皇風の徹底的浸透、臣道實踐の

促進、同祖同根理念の徹底の爲めに、一六「皇道皇民運動」を展開し、速急に皇民たるの實を致さうと奮起したのである。

海軍特別志願兵(工作兵)案内

海軍特別志願兵の使命

さきに海軍特別志願兵制度が定められて、朝鮮、臺灣の青少年は帝國海軍軍人として國防の第一線に立ち皇國皇民至高の榮譽を担ひ得ることとなつたのであるが既に第一、二期特別志願兵出陣者は新兵教育を卒へ大部分の者は海軍の最前線に配属され今勇戦敢闘してゐる

職務概要

工作兵は金錨、木具、施設等と夫々専門的に教育され艦船部隊に配属せられたら艦隊では工作隊員として活動する。

志願手續と徵募検査

年齢の資格は大正十三年十二月三日(昭和四年十二月二日生れ)で昭和二十年三月中行はれるが、志願書提出期日、徵募検査日時及場所等は各道毎に一表に告示されるから志願せんとする者は表の同表を得た上で志願書を作り期日に送られ、検査場又は駐在所に出陣検査期日、場所、志願書等詳細は領海、海軍人事課又は京城地方海軍人事課に問合せば解。

大東亞戦争と諸農商同糧政課

大東亞戦争第五年を迎へ物量を持つ故の反響は強引にも其島全境に迫り急々絶え加へる秋、國民主要食糧は勿論、重要工業原料としての食糧、諸類等の確保を期することは益々その重要性を増して来た。然るに一方増産は之に伴はず、我國に於ける此等資源の供給は一段と窮乏になつて、吾々は徒らにお米の恩恵にのみ甘へてゐる譯には行かなくなつて来た。其處で「米を増産」「米を作れ」の運動は澎湃として全國に捲き起り今迄は一部地方を除き殆ど副食としてしか考へられてゐなかつた諸が米同様主食として華々しく登場するに至つた。

何故この様に諸の増産が大きく叫ばれるに至つたかを一應考究してみよう。

第一に我國の食糧事情が米のみに頼つてゐる事が出来なくなつて来たことである。

これ迄國內で米が足りなければ外米を自由に入れて補つて来たが競争が現在のやうな様相にあつては最早外米依存の觀念を一擲しなければならなくなつた。かくて政府は國內の食糧は日清間に於て自給する方針の下に、麥類其の他の雜穀はもとより諸をも主食して綜合配給計畫を樹てざるを得なくなつた。

第二には諸は米麥等に較べて反當收量が多く而も増産の餘地が多分に残されてゐることである。

今、朝鮮に於ける主要農産物の反當收量を見るに、米は平均一石四斗、大麥稈麥

一石、小麥七斗程度であるに反し甘藷は一九〇貫、馬鈴薯は二二〇貫程度である。ところで之を反當生産カロリーに換算すると、甘藷は米に較べて稍劣るも麥類に較べて遙かに大きい。謂ひ換へれば食糧として諸は米に殆ど劣らない營養價値を持つてゐると云ふことである。而も米や麥に對してはこれ迄技術的に隨分研究が進められ、今既に收量を二倍にすることは到底望めない。然し諸は栽培技術の改善品種の改良等に依り現在の二倍或はそれ以上に増産することは左程困難ではない。若し假に甘藷が朝鮮に於ける現在の栽培面積を以て二倍の收量を挙げ得たとすれば、約百十二萬石の米を増産したことになる。こゝに食糧としての諸の強味がある。

第三は栽培が容易で收量の安定した作物である。

諸は根菜類であるから、気温が相當低下しても或程度地熱に依つて生育し風害、旱害、虫害等に對する抵抗力が麥等に較べ著しく強い。即ち豊凶の差が僅少でそれだけ收穫の確實性がある。諸が昔

から傳説作物として、凶作或は飢饉に際し、食糧が問題となつた場合大きく世人に矚目されたのは此の爲である。

第一は土地に對する適應性が強く且大量の窒肥を必要としない。それだけ生産費が割安である。

以上は主として食糧事情から見た諸増産の必要性及栽培上から見た諸の長所に就て述べたのであるが決戦下重要工業原料として諸の負荷せる使命も亦益々其の重要性を加へて来た。

即ち戦力増強に不可欠の液體燃料アルコールは航空機の燃料として或は又種々加工せられて重要工業原料として多方面の用途を持つてゐる。合成酒の如きは二〇%のアルコール含有のもの一石の原料に甘藷八〇貫で足りるのであるから反當二百貫とすれば一反歩の甘藷で二石五斗の酒が出来ると。水稲一反歩から一石五斗とすれば正に同一面積から二倍近くの酒が出来ると計算になる。

更に又諸は補綴糖其の他醫藥原料として欠くべからざるものであるが、ナメシ皮や糖蜜、紡織用糊等にも使用せられ

その他諸の用途を致へれば限りがない。我々の日常生活は諸なくしては不可能と云つても過言ではあるまい。

加之諸の利用價值は塊根部のみではない。莖や葉も食用として又飼料として利用せられてゐることは周知の通であるが、ドイツに於ては馬鈴薯の莖によつてパルプを作り、紙飢饉の緩和に大に役立てゝゐると云ふことである。職の液化和共に諸の用途は無限に擴大されることは疑がである。

上述の如く諸は此の大東亞決戦下、主要食糧として將又工業原料として極めて重要なものであり、而も農家にとつて有利な作物であるが、元來が麥類等の發類と異つて生のものであり、たゞ之を加工して乾物化し得るとしても現實の問題として機械組織に依る加工能力に制約がある以上依然として生の消化せねばならぬ状態にある。然るに諸を生るの操作することは極端極めて不円滑な折柄非常な困難を伴ふのみならず、折角寛荷された諸が輸送途中に腐敗する虞が多分にあり、そこで農家各位は米や麥のみが主食

であると云ふ従来の觀念を一掃し、大に諸を作り大に諸を食ひ、そして一粒でも多く大切なお米を併出して貰つてこの國運を賭しての大東亞戦争を捷ち抜かねばならないのである。

朝鮮總督府鑛工局に「勤勞部」設置 情報課發表

決戦下朝鮮の負荷する勤勞動員の重要性に鑑み昨年十月本府及道における勤勞行政機構を改め勤勞員、按察使に管理の三郡面に互り協力する運籌を企圖したるが更にその後の情勢の進展に鑑み一月二十七日附を以て新たに本府鑛工局内に官制により勤勞部を設け勤勞員を統括せしむると共に各道官二名、工務官一名、六名、工務官補二名を増員し又地方機構についても道長二十八名、郡長一四七名、工務官補五名、邑長二、三二〇名の中中央地方を通じての勤勞行政機構員の大増員を履行しこれが機軸を強化し以て決戦下焦眉の急務たる勤勞諸建設の萬全を期することなれり。

麥作後の肥培管理

農商局産課

▲はしき
秋の降雨は比較的少く、雨に恵まれては、播種地帯で、一部の播種地帯が、播種後、多少の播種期の遅れたため、播種は近年に比べて、良好であった。ところが、十一月中旬から全般的に降雨が有り、十一月下旬の如く、四、五日も連続したため、播種地帯に播種作業では、播種水の不足被害を受けた。十二月に入つて急に寒気が襲来して、中、西、北地方は降雪となり、南地方は凍結のまゝ越冬に及んで居る。亦本期間は、気温が例年に比較して、變化が甚しかった。

▲播種と土入
この播種は、女や國民學校の児童でも出来るから、時局下あらゆる努力を動員して、全般的に播種作業を速く進めたい。播種は、播種機を用いて、播種機に力を入れた。播種機は、播種機を用いて、播種機に力を入れた。播種機は、播種機を用いて、播種機に力を入れた。

▲中耕と除草
中耕の目的は、先づ作土を鬆軟にして、通氣を良くし、根の伸長を助け、又土中肥料分の有効度を高める等にある。従つて土の堅り、肥料の除草にもなる。従つて土の堅り、肥料の除草にもなる。従つて土の堅り、肥料の除草にもなる。

▲はしき
秋の降雨は比較的少く、雨に恵まれては、播種地帯で、一部の播種地帯が、播種後、多少の播種期の遅れたため、播種は近年に比べて、良好であった。ところが、十一月中旬から全般的に降雨が有り、十一月下旬の如く、四、五日も連続したため、播種地帯に播種作業では、播種水の不足被害を受けた。十二月に入つて急に寒気が襲来して、中、西、北地方は降雪となり、南地方は凍結のまゝ越冬に及んで居る。亦本期間は、気温が例年に比較して、變化が甚しかった。

▲播種と土入
この播種は、女や國民學校の児童でも出来るから、時局下あらゆる努力を動員して、全般的に播種作業を速く進めたい。播種は、播種機を用いて、播種機に力を入れた。播種機は、播種機を用いて、播種機に力を入れた。

▲中耕と除草
中耕の目的は、先づ作土を鬆軟にして、通氣を良くし、根の伸長を助け、又土中肥料分の有効度を高める等にある。従つて土の堅り、肥料の除草にもなる。従つて土の堅り、肥料の除草にもなる。

折損することは種々の原因による。普通多雨一四二月下旬から三月一杯にかけ土を凍らして一二月位を標準として凍結を、それ以上は土質、施肥量、伸び方に依つて減すべきである。

次に土入も時期より方々の生育状態に依つてその効果を異にし、或は生育促進の効果もあり或は生育抑制の作用もある。概して南鮮地方は効果が多く北土するにつけて効果が少い。通常多雨の葉が二三枚になり間もなく葉が枯しくなる前に最初の土入を行ふ。この時期は南鮮地方では十二月中旬中鮮地方は十一月中旬西北鮮地方は十一月上旬でこれに依つて寒の根元を寒氣及び乾燥から極力保護してやるため未だ葉が小さいのであるから土の深さは三、四分位に止めるのが普通である。

普通作地帯の不感地帯をや、腐で土を砕く事が困難なため播種後種子の土に薄く覆土をすることや堆肥を敷く地方があるがそのまゝ放置すると堆肥が乾けば種子は殆ど地面に露出して寒害と乾燥のため生育を停止し或は枯死するものを生ずる場合が少なくない。此の様な事を平気でやつて居る農家も多しのであるが是非とも来る前に適當な土入を行つて保護を加へて行き度いものである。

土入を行ふには現在土の乾燥で上から土を振り込むのであるが土の砕け具合、土の入れ加減の調節が出来なく最も適當な方法である。然し地方に依ると銀で掛ひ掛ける處もあり又コンベで土を砕き飛ばしつゝ土入を行ふ處もある。之等には夫々土の硬い地方とか又は砕け難い地方とかに依つて一顧の理由があつてやつて居る事であるが、何れも再考を要するものである。

如斯き冬の寒冷乾燥な時期に於ける土入は主として寒の根の保護を目的としてその生育を促進する意味を持つて居る。春先温暖に成つて寒が旺盛な生長をする頃の土入は一方には無効分蘗を抑制し又他方根元を固めて倒伏防止をなすものである。之と同時に分蘗を四方に擴げて通風採光を良くし之に依つて葉を丈夫にするとか畦間の風化の進んだ土を根元へ入れることに依つて肥料の効果もあるのである。

以上述べた土の深さ五分位から一寸或は二寸位の深さにするのである。斯様に生育に好影響を及ぼす効果を持つた土入であるが亦やり方に依つては却つて生育抑制作用するものである。例へば土入の量が多過ぎた場合又土が砕けないために葉を折損する場合等が之である。併し乍ら又この生育抑制的効果を加へて行き度いものである。

果をねらつた土入を行ふ場合も決して少くないのである。早播の葉茂し過ぎた葉等で土入及び剪除を生育抑制のために行ふ方が剪除の結果を腐すことは先に述べた處である。又或の播種量は萌芽の不良、萌芽後の諸障害に對する安全策を見込んで稍多い目に播くのが普通である。従つて若し秋の温暖だつた場合土質が軟弱な當であつた場合には葉茂し過ぎるのを防ぐのである。その結果は葉が軟弱になり倒伏の原因となるのである。斯る場合には、一時生育を抑制する事が却つて寒の健全な生育を促す方法となり、従つて増産の方法となるのである。普通土入の回数は一、二回を標準として寒の生育に依つて加減し南鮮地方では四月上旬、中鮮地方では四月中旬、西北鮮地方では四月中旬、五月上旬迄に依つて行ふべきである。

▲排水

排水作業は水田の製作の場合に於て最も必要なことであつて排水の不良は寒の根腐を生じ易いばかりでなく年に依つては春先の降雨に依つて思はずの被害を受ける場合もあり又雑草の発生も多いので努力を惜しまず排水を完全にして排水路の手入を充分に行ひ努めて排水を固り寒の發育を助長することが必要である。

▲追肥

追肥には硫黄、人糞尿の様な速効性の養分肥料は元肥と追肥とに適當分擔することが有効で殊に肥料不足の折一三回に分擔することが最も効果的である。元來寒は生育初期には肥料を吸収することが少く殊に多季に入つてからは一層少くなり翌春一月頃から漸次吸収量が増える。而して三月上旬頃になりばつ／＼氣候の暖くなると共に急激に増加して四月下旬頃から五月上旬頃まで肥料を最も欲するのである。而して今後の追肥は地方に依つても多少異なるが大體南鮮地方は三月一併迄に寒の生育状態に應じて中耕土入等の際同時に施用し施用後は必ず土入して覆土することが良い。古語にある「彼岸過ぎての寒の肥」といふことは全鮮一律には當てないが南鮮地方では春の彼岸は大凡追肥の適い限界として良い。

勿論其の年の氣候状態に依つて往々之より遅くとも効果のある年もあるが多くの試験成績は適い場合の不利を明に示して居る。

又良く降雨の際寒害を蒙る作務中に振り播いて居るのを見るが努力の節約からは良い方法であるが肥料施用の點から云へば不經濟で若し降雨が多過ぎた時は流出の恐れがあるばかりでなく時には肥料負けすることもあり必然的に施用時期が遅きに失する場合が多いのである。之等は適宜水に溶かして施用すべきで中西北鮮地方の乾燥のひどい處では具灌水しただけで寒の成長を増加する。要は技術を充分活用して増産に邁進したい。

▲凍害後の處理

凍害を受けた程度は二月上旬頃には略明かになる。即ち凍死したものは莖の根元まで全部黄褐色を呈して一部凍害を蒙つたものは心葉の部分も黄褐色になつても莖の部分に未だ芽味をもつて居る。凍害が古葉のみ止つて輕微なものには心葉が青く生々として居る。この程度を認て判断し三回位の凍害は普通であるからその時には何等の善後策も要しない。之の害が五割にも及んだ時は追肥の準備をする。そして二月下旬から三月上旬迄早目に追肥作業を完了すると凍害に依る減収を餘程緩和することが出来る。凍害が甚しくて残存株が三割以下の場合には之を改作して春播栽培にした方が有利である。この場合肥料は秋播栽培の残骸で充分である。

▲旱害の豫防

秋播栽培の大寒に最も大きい影響を與へる所の旱害は多年の氣象測測の結果から觀ると五月上旬から六月上旬の成熟期に起る。最も甚しい年には四十一日間に五ミリ以上の雨が一回も降らなかつた事もあつた。斯様な年には大寒は勿論小寒にも甚しい影響があり間作した大豆なども凍死二尺の所は全部枯死した。従つてこの時期に於ける旱害に對する栽培法の如何は秋播大寒の作務を支配するものと云つて良い。旱害になつた時にどうすれば良いかと云ふには雨より外に良いものは先づないが次の如き方法は比較的有効であらう。(1)土入は見合はすこと、畦間の土を削つて畦間に入れることに依つて寒の根が地裏近く出ることになり反つて旱害を多からしめる虞がある故見合はす安全である。(2)淺き中耕に依る旱害の豫防、旱害の豫防として淺い中耕は有効である。之は畦間の土を軽く打ち起して碎き土層を透き通して土質其物で耕すの水分蒸散を防ぐ方法である。この方法に依る時は土層水分を一、二%多くする事が出来る。之は平時作り又は低い畦作では出来るが高畦では出来ない。然し高畦では大寒の根の強つて居る部分は畦の裏面から可なり深い所にあるから旱害を受けることが無いので其の要は認めない。



時局の窓

敵の大擡げ
前線本陣で敵のルソン島上陸企
圖を偵察しておいたが、果してリ
ンガン島から上陸を敢行して来

敵機動部隊と敵送艦隊の接近を
が空軍が直撃偵察機に
恐く特攻隊となつて艦隊
をやつた結果は、報告をもち
し居る者がないので未詳となつ
て居るが、人間の數にして敵艦を
海底に沈めたことは想像できる。
さらにリンガン島に侵入以後沈
めた艦船二十数隻、上陸用舟艇無
算、此の大擡げを拂つてやつと上
陸し得たものが歩兵二ヶ師、戦車

師團一ヶ師である。
敵としては我が大兵力の屯する
ルソン島がけて来る以上、最
小限五ヶ師や七ヶ師の兵力を積んで
来たであらうが、その大半が上陸
前に沈められたことが想像され、
空母、艦隊以下の大損害と共に長
途な輸送路を越えて来る侵攻軍の
犠牲が守備軍に比して如何に桁外
れに大きいかを物語るものである。

待つは延滞軍
さばあれ、敵はかかる大擡げを
拂ひながらも遂にリンガン島
に取りついで橋頭堡を作り、我が
防備線に突入せんとし、ここにル
ソン島は三年越しに再び日米陸上
軍の大決戦の幕が切つて落され
た。おそらく、レイテ、ミンドロ
の困難な島嶼戦に切齒しつづつた
山下猛将軍として待ちに待つた
機曾であらう。マニラ北部の太平
野こそ大兵を擁しての主力決戦に
もつて来いの戦場だと官はれ、敵

は逐次出血を強ひられつつ掩護隊
の射撃外に誘導され「抱き寄せ
て刺す」といふ山下將軍背心の戦
法にひつかかるのではあるまい
か。
「ニューヨーク」タイムズ記者が
早くもそれを察知して
「日本軍がルソン島に全兵力を
集結しつづつて居ることは疑問の餘
地がない。現在のところ日本軍
は豫想外に慎重な態度を示して
居る。即ち米軍はさして猛烈な
抵抗にも遭遇せずに追撃して居
るが、山下大將が何れはマニラ
北方の線に猛烈な抵抗を試みる
ことは當然豫想される所だ。従
つて米軍の目下の進撃は全然あ
てにならない。前途には恐るべき
困難が山積して居る」
と報道して居るのも敵として至當
の懸念だらう。勿論敵は第二、第
三の梯隊をもつて後援兵力を選び
來り、我が特攻隊の餌食となつた
残り陸上戦線に注ぎ込まれ、彼
の兵力は漸次接近することとも

敵作戦の矛盾
これを世界の戦局に照してみる
と米國はつびきならぬハメから
絶望的命の境地に突入したものと
考へられる。即ち歐洲西部戦線で
大破綻を生じた米軍が、同時に太
平洋戦に兵力を消耗することの矛
盾であつて、これを英のロイター
軍事記者ジョン・キムチは次のご
とく非難する。曰く
「ルソン侵攻作戦は反響種世界
戦線の轉機を劃するものだ。何
故なれば反響種は太平洋戦に歴
史的側面の豫備兵力を投入した
結果、もはや他の戦域からの要
求に應じて豫備兵力を割く餘地
がなくなつたことを世界に廣告
した。ルソン上陸作戦の顯著な
特徴はそれが四五ヶ月前に計畫
されたものであることだ。當時

ならう。實に手に汗握らしめる大
決戦、この敵相の懸念こそ比島戦
の節目を定むるものと察すべき
だ。

秘

理官

六六。麥

昭和二十年産朝鮮麥類作付計畫

(一九一〇二五)

道名	十九年秋播		二十年春播		合計	
	省	田	省	田	省	田
京畿	100000	100000			100000	100000
忠北	100000	100000			100000	100000
忠南	100000	100000			100000	100000
全北	100000	100000			100000	100000
全南	100000	100000			100000	100000
慶北	100000	100000			100000	100000
慶南	100000	100000			100000	100000
黄海南	100000	100000			100000	100000
黄海南	100000	100000			100000	100000
平南	100000	100000			100000	100000
平北	100000	100000			100000	100000
合計	1000000	1000000			1000000	1000000

道名	十九年秋播		二十年春播		合計	
	省	田	省	田	省	田
江原	100000	100000			100000	100000
咸南	100000	100000			100000	100000
咸北	100000	100000			100000	100000
合計	1000000	1000000			1000000	1000000

二標 麥

道名	十九年秋播		二十年春播		合計	
	備町	田町	備町	田町	備町	田町
京畿	75000	75000			75000	75000
忠北	67000	67000			67000	67000
忍南	1215000	1215000			1215000	1215000
全北	588800	588800			588800	588800
全南	750000	750000			750000	750000
慶北	272100	272100	48400		320500	320500
慶南	353100	353100	33300		386400	386400
黃海		13000				13000
平南		10000				10000
平北						
江原						
合計	2750000	2750000	48400		2798400	2798400

道名	備町	田町	合計
京畿	75000	75000	150000
忠北	67000	67000	134000
忍南	1215000	1215000	2430000
全北	588800	588800	1177600
全南	750000	750000	1500000
慶北	272100	272100	544200
慶南	353100	353100	706200
黃海		13000	13000
平南		10000	10000
平北			
江原			
合計	2750000	2750000	5500000

三小 麥

道名	十九年		二十年		合計	
	備 田	計 可	備 田	計 可	備 田	計 可
京 畿	1,400,000	1,400,000	1,400,000	1,400,000	2,800,000	2,800,000
忠 北	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	2,000,000	2,000,000
思 南	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	2,000,000	2,000,000
金 北	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	2,000,000	2,000,000
金 南	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	2,000,000	2,000,000
慶 北	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	2,000,000	2,000,000
慶 南	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	2,000,000	2,000,000
黄 海	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	2,000,000	2,000,000
平 南	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	2,000,000	2,000,000
平 北	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	2,000,000	2,000,000
江 原	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	2,000,000	2,000,000
合計	14,000,000	14,000,000	14,000,000	14,000,000	28,000,000	28,000,000

道名	備 田	計 可
合 計	14,000,000	14,000,000

研-0656



米ライ麥

道名	十九年秋播		二十年春播		合計	
	田	計	田	計	田	計
京	1,400,000	1,400,000	-	-	1,400,000	1,400,000
忠	1,000,000	1,000,000	-	-	1,000,000	1,000,000
思	1,000,000	1,000,000	-	-	1,000,000	1,000,000
全	1,400,000	1,400,000	-	-	1,400,000	1,400,000
宮	1,400,000	1,400,000	-	-	1,400,000	1,400,000
慶	1,400,000	1,400,000	-	-	1,400,000	1,400,000
慶	1,400,000	1,400,000	-	-	1,400,000	1,400,000
平	1,400,000	1,400,000	-	-	1,400,000	1,400,000
平	1,400,000	1,400,000	-	-	1,400,000	1,400,000
江	1,400,000	1,400,000	-	-	1,400,000	1,400,000
計	12,000,000	12,000,000	-	-	12,000,000	12,000,000

合計	北	南
12,000,000	1,400,000	1,400,000
12,000,000	1,400,000	1,400,000
12,000,000	1,400,000	1,400,000
12,000,000	1,400,000	1,400,000
12,000,000	1,400,000	1,400,000
12,000,000	1,400,000	1,400,000
12,000,000	1,400,000	1,400,000
12,000,000	1,400,000	1,400,000
12,000,000	1,400,000	1,400,000
12,000,000	1,400,000	1,400,000

五合計

道名	十九年秋		二十年春		合計	
	備	田	備	田	備	田
京畿	1000000	1100000	-	-	1000000	1100000
忠北	1400000	1400000	-	-	1400000	1400000
忠南	1000000	1000000	-	-	1000000	1000000
全北	7000000	7000000	-	-	7000000	7000000
全南	1000000	1000000	-	-	1000000	1000000
慶北	8000000	8000000	1000000	1000000	9000000	9000000
慶南	2000000	2000000	-	-	2000000	2000000
黄海	1000000	1000000	-	-	1000000	1000000
平南	1000000	1000000	-	-	1000000	1000000
平北	1000000	1000000	-	-	1000000	1000000
江原	1000000	1000000	1000000	1000000	2000000	2000000
合計	61000000	61000000	1000000	1000000	62000000	62000000

道名	十九年秋		二十年春		合計	
	備	田	備	田	備	田
京畿	1000000	1100000	-	-	1000000	1100000
忠北	1400000	1400000	-	-	1400000	1400000
忠南	1000000	1000000	-	-	1000000	1000000
全北	7000000	7000000	-	-	7000000	7000000
全南	1000000	1000000	-	-	1000000	1000000
慶北	8000000	8000000	1000000	1000000	9000000	9000000
慶南	2000000	2000000	-	-	2000000	2000000
黄海	1000000	1000000	-	-	1000000	1000000
平南	1000000	1000000	-	-	1000000	1000000
平北	1000000	1000000	-	-	1000000	1000000
江原	1000000	1000000	1000000	1000000	2000000	2000000
合計	61000000	61000000	1000000	1000000	62000000	62000000

備蓄作留米の油種
 五入六六〇〇〇
 及 一〇〇〇〇
 六〇〇〇〇〇

参考一、畝田別面積比較表

種類	面積		比率	畝田		比率	計		比率
	面積	町		面積	町		面積	町	
大麥	二七七六五	町	三六%	四八六七一	町	六四%	七六四三六	町	一〇〇%
稈麥	一八〇二三四	町	五二%	一七五九四	町	四九%	三五六一八	町	一〇〇%
小麥	一五七九六	町	二五%	三三五二二	町	九五%	三五〇一八	町	一〇〇%
ライ麦	九七九	町	二%	四八四五六	町	九八%	四九四三五	町	一〇〇%
計	四七四六六	町	三一%	一、〇四六三三	町	六九%	一、五二〇九九	町	一〇〇%

参考二、種類別面積比較表

種類	面積		比率	畝田		比率	計		比率
	面積	町		面積	町		面積	町	
大麥	二七七六五	町	五九%	四八六七一	町	四六%	七六四三六	町	五〇%
稈麥	一八〇二三四	町	三八%	一七五九四	町	一七%	三五六一八	町	二二%
小麥	一五七九六	町	三三%	三三五二二	町	三二%	三五〇一八	町	二二%
ライ麦	九七九	町	〇%	四八四五六	町	五%	四九四三五	町	四%
計	四七四六六	町	一〇〇%	一、〇四六三三	町	一〇〇%	一、五二〇九九	町	一〇〇%

参考三種種別面積比較表

種 類	種別		計
	面積	比率	
大 麥	六六六五二町	八七%	七六四三六町
	三五五三六町	〇〇%	三五六一八二
小 麥	三四九四二町	〇〇%	三五、〇一八
	一、五九〇	〇	四九、四三五
ライ 麥	四九四一五	〇〇%	四九、四三五
	一、〇〇〇	〇	一、〇〇〇
計	一、四二〇七二町	九四%	一、五二〇九九六
		六	一、〇〇〇

研-0656

沓裏作麥類緊急増産計畫 自昭和二十年 至同二十一年 (朝・鮮)

道名	昭和一六年		緊急増産計畫		差引増加量	
	面積	積反當收量總收量	面積	積反當收量總收量	面積	積反當收量總收量
京畿	六二五〇・九五	五〇七五	二七五〇〇・二〇〇	一五七二〇〇	一七〇六五〇・〇五	一〇七五五
忠北	二五五〇〇・八六九	二二七五〇〇	四六五〇〇〇・九〇〇	三二八四〇〇	一〇五〇〇〇・〇三一	一〇五一〇
忠南	四〇九六一〇・八五一	三四八四六九	六四五〇〇〇・九〇〇	四〇〇〇〇〇	二三四九〇〇・〇五九	二四一〇
全北	六三九七六〇・九〇八	五八〇七一	九五〇〇〇一・〇〇〇	六〇〇〇〇〇	三二〇〇〇〇・〇三二	三六二二
全南	六二四四〇〇・九七九	六二二六二六	一〇一〇〇一・一〇〇	六二二六二六	三八六〇〇・一〇〇	三〇五五
慶北	一〇九三三一・〇六二	一一一六三四	一一〇〇一・一〇〇	六八六〇〇	一一八三〇・一三一	四一六五
慶南	一〇〇一〇〇・三二八	九二九一四	一四〇〇一・一〇〇	一四一七三〇〇	一三一六三〇・一三一	三三三三
黃海	六四〇・五七四	二二五	一八〇〇〇・四〇〇	一六七〇〇〇	一六〇六〇・〇二六	一六六九
平南						
平北						
江原	一七三二一〇・九〇九	一三三六六	五八〇〇〇・二〇〇	一三〇〇〇〇	一七四二一〇・〇三一	一〇五五

道名	面積	積反當收量總收量	面積	積反當收量總收量	面積	積反當收量總收量
威南						
威北						
合計	四一八八二五〇・九五	三三五一五七	六六六〇〇一・〇五	四一四二二〇〇	四一八八二五〇・〇三一	三三五一五七

備考 四一八八四五五増

規格—D 4 (東東 3.185)

算出基礎

道名	畝面積	昭和一六年		同上割合	増加見込普及見込		普及計畧
		裏作麥面積	割合		面積	割合	
京畿	二一、六五二町	六、二三三町	三%	一、五	一〇%	二一、二六五町	二一、三〇〇町
忠北	七三、〇〇一町	二、五四六町	三%	一、五	二%	三六、五〇一町	三六、五〇〇町
忠南	一四三、三四五町	四、〇九六一町	三%	一、六	一%	六四、五〇五町	六四、五〇〇町
全北	一七二、六九七町	六、三九七町	三%	一、八	一%	九四、九八三町	九五、〇〇〇町
全南	一七八、四九九町	六、七四五町	三%	二、二	一%	〇七、〇九九町	〇七、一〇〇町
慶北	二〇三、四四二町	〇、九三五二町	五%	一、一	一%	三二、二三七町	三二、二〇〇町
慶南	一八〇、六六六町	〇、一〇八町	五%	一、〇	一%	一七、四三三町	一七、四〇〇町
黄海	一五六、七七二町	六、四	五%	五	一%	七、八三九町	七、八〇〇町
平南	八三、四八四町						
平北	九三、三六八町						
江原	九五、七五七町	二、二二一町	三%	三	一%	四、七八八町	四、八〇〇町
威南	七三、五〇七町						
威北	二〇、一八二町						
合計	一、六八七、三七二町	一、五八二、二五	二%	一〇	三%	三五五、八六五町	三五五、八六六町

備考

- 一、裏作可能見込面積 七八六六〇町
- 二、裏作麥普及計畧面積 五八六六〇町
- 三、裏作麥以外充當可能面積 二〇〇〇〇町
- 緑肥面積一七、〇〇〇町
- 馬鈴薯其 二、〇〇〇町
- 他ノ面積 二、〇〇〇町

規格一B 4 (東東 3,185)

参考 最近一〇ケ年間に於ケル裏作麥普及状況

年次	二毛作面積	同上ノ畝面積 ニ對スル割合	裏作麥面積	同上ノ畝面積 ニ對スル割合	二毛作面積ニ對 スル裏作麥面積
昭和九年	四一、二九二	二五%	三〇、六一五	一八%	七四%
同 一〇年	四三、二七五	二六%	三一、〇二七	一八%	七二%
同 一一年	四四、九五二	二七%	三一、九〇〇	一九%	七一%
同 一二年	四六、一四二	二七%	三四、三二四	二〇%	七四%
同 一三年	四五、七一五	二七%	三六、五八五	二一%	八〇%
同 一四年	五二、八一五	三一%	三七、五六一	二二%	七一%
同 一五年	五三、六五二	三一%	四七、三二七	二七%	八八%
同 一六年	五四、三三九	三一%	四一、五八二	二四%	七七%
同 一七年					
同 一八年					

規格-B 4 (東京 3.105)

研-0656

極秘

朝鮮ニ於ケル昭和十九年産米稼穡收穫高

(一九・一一・六集)

九月二十日現在稼穡收穫高 一六六〇六二五六石

(註) 數字ハ特ニ一級公表セス (本資料より外地等ニ公表セス)

(参考)

(1) 前年實收高

一八七一八九四〇石ニ比シ

(減) 二一・二六八四石

(2) 前五ヶ年平均實收高

一九〇三三〇六九石ニ比シ

(減) 二四・二八八三石

(3) 前五ヶ年實收高中凶作
年タル十四年十七年
産米ヲ除ク三ヶ年平均

二二、七一〇六五八石ニ比シ

(減) 五・一〇四四〇二石

(4) 最近五ヶ年間ノ生産状況

昭和十四年

一四三五五七九三石

同 十五年

二一、五二七三九三石

同 十六年

二四、八八五六四二石

同 十七年

一五、六八七五七八石

同 十八年

一八、七一八九四〇石

以上五ヶ年平均

一九〇三三〇六九石

凶作年ヲ除ク

二二、七一〇六五八石 (十四年、十七年ヲ除ク)

三ヶ年平均

極
大
収
獲

特ニ公表セズ

(一九二一、五)

朝鮮ニ於ケル昭和十九年産米豫想收穫高

本年ハ早春以來一般ニ降雨少ク稍低温ニ經過シ苗代ニ於テハ稍生育遲
延ノ傾向アリタルモ概シテ順調ナル生育ヲナセリ植付ハ西北鮮地方ハ
適雨ニ恵マレ概シテ順調ニ進捗セシモ特ニ主要米産地タル中朝鮮地方
ニ於ケル五月ヨリ七月迄ノ水灌植付有効雨量極メテ少カリシ為本年七
月末日現在ニ於ケル植付済割合ハ全鮮植付豫定面積一六二ニハニセ所
ノ八割一分ニシテ植付適期ノ限界タル六月三十日迄ニハ四割一分九厘
ニ過ギサル狀況ナリ

而シテ植付後ノ生育ハ京畿道以北ノ中、西、北鮮地方ハ一般ニ氣象狀
況順調ニ推移シタルヲ以テ生育モ亦普通乃至良ノ作物ヲ示シツツアリ
シ處七月中旬及八月中旬ニ於テ京畿、忠北、黃海、平南、江原各道ニ

アリテハ三〇。概乃至六〇。概程度ノ豪雨アリテ之ガ爲苗ノ流失、埋
没面積ハ一九。一七町潑水面積五三。五五町ニ及ビ相當ノ被害ヲ蒙レ
リ然ルニ南鮮地方ニ於テ依然トシテ降雨少ク殊ニ慶南北地方ニ著シク
灌漑水ノ枯渇セルモノハ割以上ニ達シ其ノ中白乾、龜裂ヲ生セルモノ
ノ多ク高申、南鮮地方ニ浮塵子ノ發生ヲ見、且九月ニ入り全鮮的ニ降
雨連日ニ亘リ日照不足氣温低下セルヲ以テ生育著シク阻害セラレ虫總
モ五日乃至十五日程度罹延シ作物不揃ニシテ一般ニ草丈低ク今葉少ク
加之十月ニ入り早冷襲来シ降雪、早霜、早氷等相續テ至リ折柄乳熟或
ハ糊熟期ニアリタルモノハ青乏トナリ不完全粒、不稔粒割合ヲ増加シ
又ハ冷極熱病ノ發生セルモノ勢カラスシテ秋落鏽ノ不足ノ現象ヲ呈シ
ツツアリ

要スルニ本年ノ稲作ハ旱水害、虫害、出来秋ニ於ケル不順等異常天候ニ支配セラレ肥料ノ不足ト相俟ツテ官民一致ノ努力ニ拘ハラズ相當歳收ヲ予想セラルルニ至レリ

豫想收穫高調査ノ結果ハ

作付段別	水稲	陸稲	計
水稲	一三、五〇九、九九畝六段		
陸稲		七、九六〇、四六段	
計	一三、三三〇、六〇畝二段		
豫想收穫高	水稲 一、六五六、三九二石	陸稲 四、三三三、五五石	計 一、六六〇、六二五、六石

之ヲ前年実收穫ニ比スレバ

一一一・三六八四石(一割一分三重)ノ減

前五ヶ年平均実收穫(自昭和十一年中十四年、十七年ヲ除ク)ニ比スレバ

年次	米			收穫高		
	水	陸	計	水	陸	計
14	1,211,967	22,839	1,234,806	14,271,815	81,608	14,353,423
15	1,626,136	15,613	1,641,749	21,404,410	122,983	21,527,393
16	1,634,297	11,581	1,645,878	24,796,787	88,855	24,885,642
17	1,204,908	8,417	1,213,325	15,637,845	47,723	15,685,568
18	1,525,338	11,828	1,537,166	18,656,911	62,040	18,718,951
平均	1,315,100	7,761	1,322,861	16,563,721	42,335	16,606,056
						(-)2,112,689

極秘
理事官

朝鮮ニ於ル昭和十九年産米、雜穀作柄 一九、一〇、三〇

一 米穀

(1) 氣象状況

十月に入り、氣温低下（平均氣温及最低氣温ヨリ低シ）中朝
鮮地方ニ於テ十月一日初霜ナリ（平年ニ比シ十五日間早シ）十月
十二日ヨリ三日間ニ亘リ全面的ニ強ク霜ナリ、地方ニ依リテ、結氷スル
見タル状況ナリ

(2) 作況
九月以降、天候不順ニ禍ミ、秋落鎌入レ不足ナリ、作柄ハ層
悪化シ青立ニ陥ルモノ、冷稻熱、発生相多アリ、平年ニ比シ稔実
粒数尠ク不稔実粒数、割合激増シ一般ニ粒張不良、結果
トナレリ

以収獲高見透
目下、府職、各道ニ出張調査中ナルモ概ネ、六〇〇万石台ト

ナルベキ状況ナリ

二 雜穀

去来秋、異常天候ニ支配サレ當初、予想ヤ重衣切リツツアル現況
ナリ

参考

最近五年間、米収獲高	
昭和十四年	一四、三三、五七、九三、五
昭和十五年	二一、五二、七三、九三
昭和十六年	二四、八八、五、六、四、二
昭和十七年	一、六、八、七、五、七、八
昭和十八年	一、八、七、一、八、九、四、〇
五ヶ年平均	一、九、〇、三、一、〇、六、九
	早干、乾

昭和十九年十一月三十日

昭和十九年度米雜穀歩類作況

朝鮮總督府農商局

研-0656

水稻作況

一 苗代状況

早春以来降雨少ク苗代期間上半期ニアリ
 气温温低下、エルタメ之カ生育ハ遅延セルモ

概シテ順調ナリ

二 植付状況

本年ノ植付用水ハ昭和十七年以降引續キタル
 早稲ニシテ西北鮮地方ヲ除キタル中南鮮
 地方ニアリテハ雨量ハ本年一月ヨリ四月迄ハ平
 年ニ比シセシク、直接植付有効雨量タル五

六月モ亦極メテ少ク平年ニ比シ六五%ニ

過ギズ

茲ニ於テ今年植付豫定面積一六三、八三七町ニ

對シ適期植付園内タル六月三十日現在植

付済面積ハ六、七九七、七町歩 植付歩合四、九

殊ニ主要米産地帯タル中南鮮地方ノ

植付ハ極メテ進捗セズ其ノ植付済割合ハ左ノ如シ

中南鮮地方植付進捗歩合(六月三十日現在)

京畿道

三四七

忠清北道

一九五

忠清南道

一六七

降雨水量

本年一三四八(平年比%)
 平年一五九五

本年一三三三(平年比%)
 平年一八六七

本年一八二九(平年比%)
 平年二、五四

本年一、五〇八(平年比%)
 平年三、一五

自五月至六月 降雨水量

本年三、七(平年比%)
 平年三、四九

本年二、八三(平年比%)
 平年四、八二

全鮮水利組合植付用水貯水量

本年五、七〇%
 平年五、七〇%

本年六、八二%

本年五、三二%

七月 中降水量
 全鮮 本年 一八五六 (平年比シ 七五%)
 平年 二四七四
 中南 本年 一六八〇 (平年比シ 六六%)
 平年 二五五〇

尚六月三十日現在全鮮植付済割合ハ
 平年 (自昭和十一年除十四年) 七八%
 本年 四二%
 十八年 七一%
 十七年 六六%

七月ニ入りテモ中南鮮地方ニアリテハ局部的ニ豪雨ヲ見ケルガ尙全般的ニハ降雨量尠ク官民總動員ノ努力ニモ拘ハラス植付依然トシテ進捗セズ七月三十一日植付済面積一三五・九九町ハ〇%ニシテ結局植付目標面積ニ對シ三三万町ハ植付未済ヲ生ジケル

之ガ最近植付状況ヲ比較セバ左表ノ如シ

植付状況比較表

年次	六月三十日	七月一日	七月二日	七月三十一日	水稻收穫高
昭和十一年	一五二、三〇〇	一六二、二〇〇	一六二、五〇〇	二二八、五二〇	千石
西年	九〇、三〇〇	九〇、九〇〇	一〇、〇〇〇	一八五、五〇〇	千石
本年	八六、六〇〇	一〇、三六〇	一、五九〇	二四、二七四	千石
去年	五〇、三〇〇	六、〇三〇	七、〇一〇	二四、二七四	千石
去年	八七、〇〇〇	一五、〇六〇	一、五九〇	二四、二七四	千石
去年	一五、二二〇	九、〇三〇	一、〇〇〇	二四、二七四	千石
去年	一五、二二〇	一六、三三〇	一、〇〇〇	二四、二七四	千石
去年	九〇、三〇〇	一〇、〇〇〇	一、〇〇〇	二四、二七四	千石

八月中降水量

金澤 本年 一七〇 (平比) 八〇%
 平年 二二四
 中野 本年 一五二 (平比) 七四%
 平年 二〇五
 釜山 本年 一六八 (平比) 一三三%
 平年 一三二
 大野 本年 七三 (平比) 四七%
 平年 一五五

年	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	計
本年	一〇八	一七二	一〇九	一〇九	一〇九	一〇九	一〇九	一〇九	一〇九	一〇九	一〇九
平年	一〇八	一七二	一〇九	一〇九	一〇九	一〇九	一〇九	一〇九	一〇九	一〇九	一〇九

三、七、八月中ニ於ケル旱魃状況

八月ニ入りテモ依然トシテ降水量少ク殊ニ後南北地方ノ如キハ八月中僅カニ一七耗乃至七〇耗程度ノ降雨ニ過ギザル後灌溉水ノ枯渴セルモノ八割以上ニ達シ兩道植付済面積二二千町ニ對シ一七四千町歩ハ白乾龜裂ヲ生ジ枯死スルモノ蹟出セリ
 京畿、忠南北、全南北道ニアリテモ八月中ニ

畜面用水枯渴セルモノニ割程度ニ及ビタリ從ツテ之等植付遲延シ居リタル中南鮮地方ニアリテハ折柄分葉及幼穂形成期ヨリ穂孕期ニ介在セルヲ以テ其ノ被害激甚ニシテ勢ヒ大幅ノ減收ヲ来シ被害面積七三万町減收一三七万石ニ達セリ

四、七、八月中ニ於ケル水害状況

七月十日ヨリ十五日迄ニ京畿道北部地方ニ於テ三〇耗乃至三五〇耗ノ豪雨ニ依リ水害アリ次デ七月十九日、二十日京畿道東部地方

忠清北道西北部地方、江原道西部地方、黄海道
 北部地方、平安南道南部地方ニアリテ三〇耗
 乃至六〇耗程度ノ豪雨襲来セルヲ以テ其ノ
 兩田ニ巨ル水害状況左ノ如シ

七月ノ水害状況

道名	流	失埋	没	計	浸水	合計
京畿	一五六九	四三六六	五九三五	九九五四	一五六九	
忠北	三〇二七	二一三	四五四〇	六二七〇	五八〇〇	
黄海	五三〇	五五〇	一〇八〇	三九四七	一五〇二七	
平南			三三五	七三九七	七三九七	
江原	七〇三	一〇九二	一七九五	一三六一	三一五六	

瓜南

計	一三五八五	三三九九七	四一八八二
---	-------	-------	-------

八月ノ水害

八月十八日黄海道中北部地方ノ主要米作地
 帯ニ數時間ニシテ二〇〇耗乃至三〇〇耗程
 度ノ豪雨襲来シ浸水三日間ニ亘リタルモ
 折柄穗早期或ハ出穂直後ナリシ爲相當
 被害アルモノト認めラル尚右ノ流矢埋没
 面積五四三二町浸水面積一九五五八町ナリ
 (三) 七月ニ於ケル水害合計
 (四) 八月ニ於ケル水害合計
 (五) 八月ニ於ケル水害ヲ合計スレバ左ノ如シ

自九月一日至九月五日降雨日数

廣南香州	九日
廣北大印	九日
全南北州	八日
全北裡里	八日
忠南大田	九日

流失埋没面積	一九〇七町
浸水面積	五三三五五
計	七二五七二

其減收石數 五〇万石以上ニ及ビタリ

五九月間花出穂期ニ於ケル異常天候ニ依ル影響
出穂期ノ遅延

鮮肉ニ於ケル出穂期ハ中鮮八月月中旬、南鮮八月下旬ナルガ本年ノ出穂ハ全鮮的ニ相當遅延シ且
不揃ナリ即

用水アリ適期植付セシ苗 五日乃至一〇日遅延セリ
用水ナク遅植セシ苗 一〇日乃至二〇日遅延セリ

之ガ原因トシテハ左ノ如シ

(一) 用水不足ニ依リ植付遅延セルヲト

(二) 七月中下旬ノ日照不足ト八月下旬ノ低温

(三) 早稲苗ニ於ケル七月下旬乃至八月月上旬幼穂形成

期ニ於ケル被害並穂孕期ニ於ケル早稲

(四) 本省ニ於ケル無磷酸栽培ニ依ル影響

(2) 九月上中旬ニ於ケル霖雨

斯クテ中南鮮地方ノ本年出穂最盛期ハ九月一日

ヨリ九月十五日ノ期間ニアリタルガ此ノ間全鮮

的ニ霖雨引續キタルト日照不足セル結果ハ

八月中ノ早害ト相俟ツテ開花受精作用ニ

京水原 九日
 南海州 七日
 平南平壤 三日
 咸甲咸興 八日

重大ナル支障ヲ招来セリ

不登熟期ニ於ケル冷害

九月中旬ニ至リテ氣温低下シ西北鮮殊ニ平南
 北地方ノ如キハ廣範圍ニ降雪ノ被害ヲ被リタリ
 一〇月ニ至リ全鮮的ニ上月中旬ニ至リテ急激ニ氣
 温低下シ早霜早氷等早冷襲来シ中南鮮地
 方ハ出穂遅延セル爲折柄乳熟期ニ至リ
 タルヲ以テ稔實不能ニ陥リテ青玄充實不
 完全ノ爲瘦米又ハ粒ヲ生ジ且冷稻熱病ヲ
 發生セリ

斯クテ糧付遲延セ八月ノ早害日本書紀九月ノ早害一〇月ノ冷害等
 逆来稀ナル異常天候ハ遂ニ激シキ秋落
 鎌入不足ノ現象ヲ呈スルニ至レリ

地点	本年	10月上旬		10月中旬		備考
		平均気温	最低気温	平均気温	最低気温	
慶南晋州	本年	一九四四	一〇四一	一七四二	八三三	十三日 一、二
比南大田	本年	一五八一	六八一	一三六六	六七〇	十日 〇、〇 十日 〇、〇
京畿水原	本年	一六七二	五八七	一三九八	四四〇	十日 〇、〇 十日 〇、〇
黄海沙里院	本年	一〇〇一	四六八	七〇七	一九四	二十日 〇、〇
平南平壤	本年	一五二六	三三四	一三〇五	一四四	十日 〇、〇 十日 〇、〇
平北康州	本年	一四六三	四三六	一三九六	二四九	十日 〇、〇 十日 〇、〇

初霜及初氷調査表
一 初霜

地名	本年	前年比	平年比	摘	要
地 基	10月2日	早 2日	早 5日		
新 義 州	10月9日	早 3日	晚 3日		
城 津	10月13日	早 8日	早 10日		
元 山	10月1日	早 2日	早 13日		
平 壤	10月10日	早 12日	早 2日		
新 幕	10月1日	早 12日	早 8日		
海 州	10月2日	早 10日	早 9日	創立以来早現/新記録	
京 城	10月3日	早 14日	早 2日		
仁 川	10月14日	早 28日	早 19日	創立以来第二位/早現	
天 安	10月10日	早 17日			
長 前	10月14日	早 30日			
大 田	10月13日	早 10日			

≡ 初 氷

地名	本年	前年比	平年比	摘	要
秋 風 嶺	10月13日	早 10日	早 5日	創立以来第二位/早現	
全 州	10月13日	早 13日	早 2日		
尚 州	10月14日	早 18日			
浦 項	10月13日	早 19日			
蔚 山	10月13日	早 17日	早 14日	創立以来早現/新記録	

地名	本年	前年比	平年比	摘	要
地 名 本	10月12日	早 10日	早 16日		
新 義 州	10月13日	早 18日		創立以来早現/新記録	
咸 興	10月13日	早 18日			
平 壤	10月13日	早 23日	早 7日		
新 幕	10月10日	早 17日	早 9日		
全 州	10月14日	早 28日	早 17日	創立以来早現/新記録	
光 州	10月14日	早 30日	早 18日		
浦 項	10月13日	早 30日			

七、病虫害ノ發生

(1) 旱魃ニ伴ヒ慶南北、忠南北、全南北地方ニ相
當廣範圍ニ亘リ夏浮塵子ノ發生ヲ見、相當
ノ被害ヲ見タリ

(2) 植升遲延七八月ニ於ケル省用水ノ枯渴九月ノ
霖雨、一月ノ早冷ニ依リ中南鮮地方ニ節
稻熱病及穂首稻熱病發生シ其ノ被害
激甚ナリ

(3) 全北、忠南地方ニ於テ出米秋ニクテハマキ發
生シ相當ノ被害ヲ蒙リタリ

八、販賣肥料施用量ノ減少

段當	一五年產				一六年產				一八年產				一九年產			
	窒素	磷酸	硫酸	合計	窒素	磷酸	硫酸	合計	窒素	磷酸	硫酸	合計	窒素	磷酸	硫酸	合計
一	一〇三四	一〇一五	九一四	六七四	一〇三四	一〇一五	九一四	六七四	一〇三四	一〇一五	九一四	六七四	一〇三四	一〇一五	九一四	六七四
二	三五七	三四五	一〇九	四九	三五七	三四五	一〇九	四九	三五七	三四五	一〇九	四九	三五七	三四五	一〇九	四九

販賣肥料施用量ハ輒近逐次減少ヲ来シツツア
ルガ殊ニ本年産米ニ當リテハ磷酸質肥料(總
量三〇〇噸)ハ全部之ヲ苗代肥料トシテ施用
シ本省ハ全然之ヲ施用スル能ハザリシガ無磷
酸栽培ガ有力ナル誘因トナリ出穂期ノ遲延ヲ
招来セルガ延ヒテ出米秋ニ於ケル異常天候ニ
支配シタルハ洵ニ遺憾トスルトコロナリ

水 稻 植 付 有 効 降 水 量

月 別 地 名	1月~4月計		5 月		6 月		5月~6月計		7 月		5月~7月計		8 月	
	本 年	平 年比	本 年	平 年比	本 年	平 年比	本 年	平 年比	本 年	平 年比	本 年	平 年比	本 年	平 年比
釜 山	224.2	← 41.6	105.8	← 24.5	26.4	← 17.7	132.2	← 198.2	128.1	← 156.5	260.3	← 354.7	15.6	← 116.3
大 邱	107.1	← 47.2	52.0	← 22.4	51.8	← 36.1	103.8	← 98.5	82.4	← 125.3	186.2	← 223.8	71.8	← 98.0
秋 風 嶺	117.3	← 37.0	42.0	← 37.8	102.7	← 30.1	144.7	← 67.9	100.4	← 68.5	245.1	← 136.4	156.0	← 17.0
木 浦	124.6	← 80.9	51.6	← 38.2	105.3	← 31.7	156.9	← 68.9	154.4	← 46.7	311.3	← 116.6	203.4	← 37.2
全 州	82.4	← 98.8	50.4	← 28.7	118.3	← 8.2	168.7	← 37.9	267.0	← 23.8	437.7	← 61.7	251.0	← 11.0
京 城	138.4	← 21.1	93.2	← 15.5	125.3	← 4.2	198.5	← 11.3	293.2	← 98.9	471.9	← 110.2	214.2	← 38.3
海 州	87.8	← 23.2	85.6	← 8.3	175.7	← 44.5	261.3	← 52.8	307.2	← 40.8	568.5	← 12.0	339.5	← 155.1
平 壤	84.3	← 15.2	39.3	← 29.9	160.2	← 55.9	199.5	← 56.0	330.7	← 89.7	539.2	← 165.9	174.8	← 59.1
新 義 州	51.5	← 41.1	71.5	← 6.4	174.6	← 57.2	266.1	← 50.8	110.6	← 135.2	376.7	← 84.4	126.3	← 156.2
江 陵	308.4	← 39.4	45.5	← 27.3	45.5	← 52.9	91.0	← 90.2	139.4	← 92.9	230.4	← 173.1	117.7	← 107.2
元 山	138.5	← 40.1	51.2	← 37.0	272.6	← 152.5	323.8	← 113.5	285.3	← 15.4	608.1	← 128.9	276.2	← 44.5
咸 津	151.2	← 60.6	23.9	← 34.7	124.2	← 51.5	148.1	← 20.8	46.4	← 57.6	794.5	← 36.8	97.8	← 66.4
平 均	134.8	← 24.9	59.3	← 24.8	132.6	← 23.2	182.9	← 22.5	185.6	← 61.8	368.5	← 84.3	190.4	← 43.6

豊凶考照試験 = 依ル一穂粒數調査 (朝鮮總督府農業試験場裡支場)

品種名	一穂粒數				稔實粒數				不稔實粒數				不稔歩合			
	昭和16年	" 17年	" 18年	" 19年	昭和16年	" 17年	" 18年	" 19年	昭和16年	" 17年	" 18年	" 19年	昭和16年	" 17年	" 18年	" 19年
日ノ出	66.7	102.0	-	75.1	56.1	94.0	-	67.8	10.6	8.0	-	5.3	15.9	7.8	-	7.6
無芒愛國	68.0	87.0	112.7	75.3	64.2	97.0	97.6	60.6	3.8	8.0	20.1	6.7	5.6	8.2	20.6	7.8
中生銀坊主	65.7	84.1	94.1	77.3	62.1	62.0	92.6	72.6	3.6	4.1	21.5	4.7	5.5	6.4	28.6	6.5
穀良都	83.5	83.9	91.6	93.4	80.0	81.0	77.7	67.7	8.5	2.9	13.9	3.7	4.2	3.4	17.9	5.3
多摩錦	75.9	82.8	95.5	70.0	72.2	77.3	88.7	65.4	3.7	3.5	6.8	4.6	4.9	4.2	7.7	7.0
早生神力	63.9	73.5	81.8	77.7	59.7	70.3	75.7	74.9	4.2	3.2	6.1	7.2	6.6	4.4	8.1	9.6
銀坊主	65.3	85.3	97.9	82.9	61.8	77.5	82.5	78.0	3.5	5.8	14.4	5.9	5.4	6.8	17.2	7.6
石山租	80.0	90.6	113.3	82.5	75.2	81.3	91.2	75.5	4.8	8.3	22.1	7.0	6.0	10.3	24.2	9.3
早熟雄町	82.3	82.5	87.5	81.4	76.6	77.7	77.5	74.4	5.7	2.8	10.0	7.0	6.9	3.4	7.8	8.4
豊玉	78.9	67.3	88.7	84.0	75.4	63.9	82.0	84.2	3.5	3.4	7.7	7.8	4.4	5.1	9.4	11.6
瑞虎	72.0	74.4	72.9	56.9	66.0	70.8	68.6	53.4	6.0	3.6	4.3	3.5	8.3	4.8	6.3	6.6
平均	72.9	87.2	84.2	77.0	68.1	76.4	81.5	71.5	4.8	5.0	12.7	5.9	6.7	6.0	14.9	8.2

雜穀(大豆、小豆、粟、稗、蜀黍、蕎麥、燕麥、玉蜀黍)ノ作況
 一 播種期ヨリ開花(出穂)期

播種當時ヨリ六月中旬迄全鮮ニ亘リ降水量少ク北鮮地方ヲ
 除キ氣温亦稍低溫ニ推移シタル爲發芽後草丈伸長悪ク概不
 不良ナリシガ其右七月末迄ハ中、西北鮮地方ニ在リテハ適雨ニ
 恵マレ氣温モ上昇セルヲ以テ生育漸次回復シ殊ニ主要生産地
 タル西北鮮地方ニ於テハ良好ナル作物ヲ示セリ
 二 開花期ヨリ成熟期

西北鮮地方ニ在リテハ開花期タル七月下旬乃至八月上旬ニ於テハ
 降雨日數多ク引續キ九月末成熟期ニ亘ル迄降雨連日ニ亘
 リ日照不足シ濕害ヲ蒙リタリ

主要雜穀ノ開花、出穂、成熟期

地方別	大豆		玉蜀黍		粟		蜀黍	
	開花期	成熟期	開花期	成熟期	出穂期	成熟期	出穂期	成熟期
中南鮮地方	八月上旬	八月上旬	八月上旬	九月下旬	八月上旬	九月上旬	八月上旬	九月上旬
西北鮮地方	八月上旬	八月上旬	七月下旬	九月下旬	九月上旬	九月上旬	八月上旬	九月下旬

西北鮮地方ノ降水日數及降水量

地名	七月下旬		八月上旬		八月中下旬		九月中旬	
	降水日數	降水量	降水日數	降水量	降水日數	降水量	降水日數	降水量
平北江界	六	四九	六	四八	一一	九二	一九	一三三
咸南咸興	一一	五二	六	二二	九	二七	一一	一〇九
咸北鏡城	五	二五	四	一五	一一	四六	一一	七五

平北 定州	平南 平壤	黄海 沙里院	黄海 海州
五	三	五	六
三三	三三	五五	六六
四	四	四	一〇
五二六	九一九	一〇九八	一四六〇
八	八	九	一三
一六〇八	一〇三五	一一二二	一六七二
一三	一三	九	一一
二五九六	一九八八	一八八八	一三三〇

尚開花后ノ気温ヲ觀ルニ気温ハ例年ニ比シ八月上旬中及下旬
 九月中旬ハ相當低下シオリ十月ニ入りテハ更ニ相當低位ニリテ
 早冷ニ依リ降霜早キニ比シ早ク且平南北地方ノ如キ極メテ腐爛
 圃ニ降霜ノ襲来ヲ受ケ甚大ナル脱粒被害ヲ蒙リタリ
 斯クテ雜穀ニアリテモ濕害冷害ヲ蒙リタル爲生育阻害ヲ招来シ
 結實不能ノ多稔實不充分ニ陥リタルモノ尠カラズ
 次ニ南鮮地方ニアリテハ早晩ノ爲發芽不良ノ實ニナルモノ多ク

又暴雨ハ爲生育概不良ナリ就中水稻代作ノモノハ再播追播ヲ
 行ヒテルヲ以テ播種期特ニ遅延シ殊ニ主夫ル以テ穀物ノ收穫量
 於テ作況極メテ不良ナリ

中西北鮮地方気温

咸南 咸興	平北 江界	平北 定州	平南 平壤	黄海 沙里院	小嶺 水京
本年 度	本年 度	本年 度	本年 度	本年 度	本年 度
八月 中旬	二六二	二六二	二五三	二六四	二五〇
八月 下旬	二六三	二六三	二五三	二六四	二五〇
九月 月上旬	一九七	一九七	二〇四	一九六	二〇一
九月 月中旬	二〇一	二〇一	二〇四	一九九	二〇五
九月 月下旬	二〇四	二〇四	二〇五	二〇九	二〇七
十月 月上旬	二〇三	二〇三	二〇五	二〇五	二〇七
本年 度	二六二	二六二	二五三	二六四	二五〇
本年 度	二六三	二六三	二五三	二六四	二五〇
本年 度	一九七	一九七	二〇四	一九六	二〇一
本年 度	二〇一	二〇一	二〇四	一九九	二〇五
本年 度	二〇四	二〇四	二〇五	一九九	二〇七
本年 度	二〇三	二〇三	二〇五	二〇九	二〇七
本年 度	二〇四	二〇四	二〇五	二〇九	二〇七

斯クテ八月中旬以降ハ濕害、日照不足、低温ニ災サレタルカ幸ウシテ
 半年作以上ヲ確保シ得タリ 即チ

種類名	本年作付改別	本年検収収獲高(精穀)
大豆	六三、八六一	二七、二四〇石
小豆	一六九、四六九	六〇、五五六
粟	六七、四七九	二一、五四二
稗	五八、四一六	一一、七三一
蜀黍	八六、九五三	四、五四二
五蜀黍	二〇、七七五	一、五五〇
蕎麥	一七〇、〇六五	四、五五八
燕麥	四、五一八	五、九三六
計	二〇三、〇五五	七、二五四

之ヲ前年度並前年平均收高ニ比較スレハ(精穀)

種類名	前年ト比較	前年平均ト比較
大豆	四七、三五四三石ノ増	一〇、七七九石ノ減
小豆	一四八、九三七石ノ増	二〇、一九九石ノ減
粟	五一、二二六石ノ減	一八、〇二八石ノ減
稗	一五、三三五石ノ増	二、四五二石ノ増
蜀黍	八五、八八五石ノ増	一五、一八一石ノ増
五蜀黍	二、四五二石ノ減	三、六三九石ノ増
蕎麥	一、四三〇石ノ増	一、八一四石ノ増
燕麥	二、二七石ノ減	二、四五〇石ノ減
計	七、三〇九石ノ増	二、四四三石ノ増

薯類作況

西北僻地方ヲ主体トスル馬鈴薯ハ多雨ナリニ厚其作柄番
通ニシテ甘藷ハ其主産地帯タル南鮮地方極メテ寡雨
ニ經過セルヲ以テ生育著シク阻害セラレ其作柄不良ナリシモ
之ガ増産ニ努力セル結果前年ニ比シ作付段別ニ於テ甘藷
三ノ五五町ニ段馬鈴薯一ノ九二九町ニ段計三ノ四一四町八段ノ
増加ヲ見タル結果增收ヲ豫想セラルルニ至レリ
即チ本年豫想收穫高ハ

種類名	本年作付段別	本年豫想收穫高
甘藷	六三、八九三、七	一、〇、二六四、四三五

馬鈴薯	計
一六三、一七、三五	三三七、〇六六、二
三三七、五六、〇三七六	三四七、八三四、八一

之ヲ前年度並前々年平均貴收高ニ比スレハ

種類名	前年トノ比較	前々年平均トノ比較
甘藷	五九、三九六、百ノ増	二八、〇五五、〇五五ノ増
馬鈴薯	六三、八六六、五百ノ増	七、七九三、四七五ノ増
計	六三、二四〇、二六一ノ増	一、〇五九、八九五、三〇百ノ増

麥類作況

一 生育経過

適期播種が徹底セラレ發芽齊一ニシテ生育概テ良好ナリシガ
 一月以降四月迄降水量ハ極度ニ寡少ナリシ爲相嘗乾害ノ
 現象ヲ呈シタルが官民總動員ニテ肥培管理ニ萬全ヲ盡シ
 タル初果ト四月以降通雨ニ恵マレタル結果生育著シク恢
 復シ收穫期ニ於テ平年作(精穀ハ六四六千石)ニ比シ七三二千石
 (精穀)ノ增收ヲ豫想セラレタリ

即チ本年豫想收穫高ハ

種類名	本年作付段別	本年豫想收穫高(精穀)
大麥	七九〇、八七六	四五九、八五四

種類名	本年作付段別	本年豫想收穫高(精穀)
稈麥	三四八、八九三	二六六、七一六
小麥	三三〇、〇七〇	一九〇、九一八
ライ麥	四八一、一七八	二三三、五一三
計	一、五七二、一六九	九三七、七六二

之ヲ前年度並前五年平均實收穫ニ比較スレバ(精穀)

種類名	前年トノ比較	前五年平均トノ比較
大麥	五、〇七三、八三三石増	五、七四九、七七石増
稈麥	五、五三三、三三石増	八一七、四三石増
小麥	三、九九六、四九石増	五、四二五、三石減
ライ麥	一、九三三、五一石増	一、三九二、一四石増
計	三、四五五、三三石増	七、三二八、二石増

秋

米豫想收穫高

一九二二

伊予等縣豫想收穫

本年ハ早春以來一般ニ降雨少ク稍低溫ニ經過シ苗代ニ於テハ稍生育遲延ノ傾向アリタルモ概シテ順調ニ生育ヲナセリ

植付ハ西北鮮地方ハ適雨ニ恵マレ概シテ順調ニ進捗セシモ特ニ主要米産地帯タル中南鮮地方ニ於ケル五月ヨリ七月迄ノ水稻植付有効雨量極メテ少カリシ為本年七月末日現在ニ於ケル植付済割合全鮮植付豫定面積一六二八三町ノ八割一分ニシテ植付適期ノ限界タル六月三十日迄ハ四割一分九厘ニ過サル状アリ而シテ植付後ノ生育ハ京畿道以北ノ中西北鮮地方ハ一般ニ氣象狀況順調ニ推移シタルヲ以テ生育モ亦普通乃至良ノ作柄ヲ示シツアリシ處七月月中旬及八月中旬ニ於テ京畿道北黃海平南江原各道ニ於テハ三〇〇程乃至六〇〇程ノ豪雨アリテ之ガ為畚ノ流失埋没面積ハ一〇一七町浸水面積五三三五町及官相備被害ノ數ハ三〇〇〇餘戸ニ達シ然ルニ南鮮地方ニ於テ依然トシテ降雨少ク殊ニ慶南北地方ニ著シク灌溉水ノ枯渇セルノハ割以上ニ達シ其中白乾龜裂ヲ生セルモノ多ク尚中南鮮地方ニ浮塵子^{浮塵子}見且九月に入り全鮮的ニ降雨連日ニ亘リ日照不足氣溫低下セルヲ以テ生育著シク阻害セラレ出穂モ五日乃至十五日程度遲延シ作柄不揃ニシテ一般ニ草丈低ク分蘖少ク加之十月に入り早冷襲來ニ降雹^{降雹}早霜^{早霜}早水^{早水}等相續テ遂リ折柄乳熟或ハ糊熟期ニアルモノハ青立^{青立}トナリ不完全粒不稔粒歩合ヲ増加シ又ハ冷稻熱病ノ發生セルモノ尠カラズシテ秋落^{秋落}籾入不足ノ現象ヲ呈シツ

要スルニ本年ノ稲作ハ旱水害^{旱水害}虫害^{虫害}出來秋ニ於ケル不順^{不順}等異常^{異常}天候^{天候}ニ支配セラレ肥料ノ不足ト相俟ツテ官民一致ノ努力ニ拘ラズ相當減收ヲ豫想セラルルニ至レリ

豫想收穫高調査ノ結果ハ

作付面積

水稲 一三一五〇九九町六段
 陸稻 七九六〇町六段
 計 一三二三〇六〇町二段

播種收穫高

水稲 一六五九三九二一石
 陸稻 四三三三五石
 計 一六六〇六二五六石

之ヲ前年実績高ニ比スレバ

三二二二六八四石(一割一分三厘)ノ減

前五ヶ年平均実績高

(至昭和十七年) 中(十七年) 六七四五六六八石(二割八分九厘)ノ減收ヲ示セリ

道別作付面積

道名	作付面積	播種面積	收穫高	前年比
道計	一三二三〇六〇	一六六〇六二五六	一六六〇六二五六	比
京畿	一八五、一三五	一六八、五九九	一六八、五九九	比
東北	六七、〇六二	五〇、五五九	一七、五〇七	比
東南	一五七、七五九	一二三、七四九	三三、〇一〇	比
金北	一三三、七〇八	一三四、五七六	二九、一五二	比
金南	一九八、〇六〇	一五〇、四四七	四七、六一二	比
慶北	一八三、五一三	九二、二七一	九一、三三四	比
慶南	一五三、七三九	一一〇、三三七	四三、三六二	比
黄海	一四七、八八〇	一四一、七二〇	六、一六〇	比
平南	八〇、八二四	七六、六七三	四、一五一	比
平北	九三、七九七	九三、八一〇	四、三三三	比
江東	八六、六一九	七九、七〇六	六、九一三	比
成南	六六、四二七	六四、八九六	一、五三一	比
成北	一八〇、七三五	一八一、七九二	一〇、〇五七	比
合計	一三二三、八二七	一三三一、九九六	三、〇七二	比

米稼想收穫高

(道別)

道名	作		計		水		陸	
	水	陸	水	陸	水	陸	水	陸
道	一六八五九六	二〇四〇〇	一六八五九六	二〇四〇〇	一六八五九六	二〇四〇〇	一六八五九六	二〇四〇〇
京	五〇五五九〇	三三三	五〇五五九〇	三三三	五〇五五九〇	三三三	五〇五五九〇	三三三
忠	一三三七四九	四四〇	一三三七四九	四四〇	一三三七四九	四四〇	一三三七四九	四四〇
全	一三四五五六	七二九	一三四五五六	七二九	一三四五五六	七二九	一三四五五六	七二九
全	一五〇四四三	一四二七	一五〇四四三	一四二七	一五〇四四三	一四二七	一五〇四四三	一四二七
慶	九二七七一	七九三	九二七七一	七九三	九二七七一	七九三	九二七七一	七九三
慶	一一〇三七六	一三〇三七	一一〇三七六	一三〇三七	一一〇三七六	一三〇三七	一一〇三七六	一三〇三七
廣	一四一七二八	一三二二四	一四一七二八	一三二二四	一四一七二八	一三二二四	一四一七二八	一三二二四
平	一七六六七七	三三〇九九	一七六六七七	三三〇九九	一七六六七七	三三〇九九	一七六六七七	三三〇九九
平	九三三八一〇	一四九〇	九三三八一〇	一四九〇	九三三八一〇	一四九〇	九三三八一〇	一四九〇
江	一七九七〇六	二八二	一七九七〇六	二八二	一七九七〇六	二八二	一七九七〇六	二八二
咸	大八八九五	七九七	大八八九五	七九七	大八八九五	七九七	大八八九五	七九七
咸	一八一七九二	一八一七九二	一八一七九二	一八一七九二	一八一七九二	一八一七九二	一八一七九二	一八一七九二
合	一三二五〇九六	七九六六	一三二五〇九六	七九六六	一三二五〇九六	七九六六	一三二五〇九六	七九六六

水稻期別植付進捗割合

十、大早稲(10%)
早稲(10%)

植付進捗割合

期別	六月三十日	七月十日	七月二十日	七月三十日
作付及別	一三三〇七六	一三三〇七六	一三三〇七六	一三三〇七六
作付	一三三〇七六	一三三〇七六	一三三〇七六	一三三〇七六
別	一三三〇七六	一三三〇七六	一三三〇七六	一三三〇七六
量	一三三〇七六	一三三〇七六	一三三〇七六	一三三〇七六

水稻年次別植付進捗割合 (道別)

道名	昭和十四年	十五年	十六年	十七年	十八年	十九年	昭和十四年	十五年	十六年	十七年	十八年	十九年
道名	六六五	五三六	三三三	三三三	六六五	五三六	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三
忠北	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三
忠南	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三
全北	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三
全南	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三
慶北	一五九	一五九	一五九	一五九	一五九	一五九	一五九	一五九	一五九	一五九	一五九	一五九
慶南	一八三	一八三	一八三	一八三	一八三	一八三	一八三	一八三	一八三	一八三	一八三	一八三
黄海	九六六	九六六	九六六	九六六	九六六	九六六	九六六	九六六	九六六	九六六	九六六	九六六
平南	九八五	九八五	九八五	九八五	九八五	九八五	九八五	九八五	九八五	九八五	九八五	九八五
平北	九八一	九八一	九八一	九八一	九八一	九八一	九八一	九八一	九八一	九八一	九八一	九八一
江東	九四六	九四六	九四六	九四六	九四六	九四六	九四六	九四六	九四六	九四六	九四六	九四六
江南	九八三	九八三	九八三	九八三	九八三	九八三	九八三	九八三	九八三	九八三	九八三	九八三
咸北	九五五	九五五	九五五	九五五	九五五	九五五	九五五	九五五	九五五	九五五	九五五	九五五
合計	五三〇	五三一	九三二	六三三	七三三	四二九	五三四	九三〇	七三三	七三三	七三三	六九四

道名	昭和十四年	十五年	十六年	十七年	十八年	十九年	昭和十四年	十五年	十六年	十七年	十八年	十九年
道名	八四三	九三三	一〇〇〇	八四五	八四五	八二九	八四三	九三三	一〇〇〇	八四五	八四五	八二九
忠北	五二〇	五二〇	五二〇	五二〇	五二〇	五二〇	五二〇	五二〇	五二〇	五二〇	五二〇	五二〇
忠南	五三三	五三三	五三三	五三三	五三三	五三三	五三三	五三三	五三三	五三三	五三三	五三三
全北	四七一	四七一	四七一	四七一	四七一	四七一	四七一	四七一	四七一	四七一	四七一	四七一
全南	六五四	六五四	六五四	六五四	六五四	六五四	六五四	六五四	六五四	六五四	六五四	六五四
慶北	三七二	三七二	三七二	三七二	三七二	三七二	三七二	三七二	三七二	三七二	三七二	三七二
慶南	六七六	六七六	六七六	六七六	六七六	六七六	六七六	六七六	六七六	六七六	六七六	六七六
黄海	九九七	九九七	九九七	九九七	九九七	九九七	九九七	九九七	九九七	九九七	九九七	九九七
平南	九四九	九四九	九四九	九四九	九四九	九四九	九四九	九四九	九四九	九四九	九四九	九四九
平北	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
江東	九六六	九六六	九六六	九六六	九六六	九六六	九六六	九六六	九六六	九六六	九六六	九六六
江南	九八三	九八三	九八三	九八三	九八三	九八三	九八三	九八三	九八三	九八三	九八三	九八三
咸北	九五五	九五五	九五五	九五五	九五五	九五五	九五五	九五五	九五五	九五五	九五五	九五五
合計	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇

水稻植付有効降水量

月別 地名	1月-4月計		5月		6月		5月-6月計		7月		5月-7月計		8月	
	本量	平年比	本量	平年比	本量	平年比	本量	平年比	本量	平年比	本量	平年比	本量	平年比
釜山	224.2	104.6	105.8	24.7	26.4	172.7	112.0	178.2	128.1	156.5	260.3	116.7	156.0	116.3
大邱	107.1	31.2	52.0	22.4	51.8	76.1	103.8	98.5	82.4	125.3	188.2	202.5	71.8	99.0
秋田	117.3	157.0	42.0	37.8	102.7	30.1	144.7	67.7	100.4	48.5	245.1	136.4	156.0	17.0
木浦	124.6	44.8	51.6	38.2	105.0	31.7	156.7	67.7	154.4	46.7	311.3	116.6	202.4	37.2
全州	82.4	18.8	40.4	29.7	118.3	8.2	168.7	37.7	267.0	22.8	437.7	61.7	251.0	11.0
京城	128.4	21.6	73.2	18.5	125.3	4.2	198.5	11.3	272.2	98.9	471.7	110.2	214.2	38.3
海州	87.8	23.2	85.6	8.3	175.7	44.5	261.3	62.8	207.2	40.8	568.5	12.0	338.5	11.1
平壤	54.3	16.2	27.3	29.9	16.2	85.9	198.5	56.0	320.7	89.7	530.2	128.7	114.5	33.1
新義州	51.5	14.7	91.5	6.4	174.6	57.2	266.1	50.8	110.6	135.2	376.7	84.0	126.3	156.2
江陵	307.0	44.4	46.5	27.3	66.5	52.9	91.0	80.0	138.4	92.9	230.4	173.1	111.7	107.2
元山	128.5	40.1	51.2	39.0	272.6	12.5	223.8	113.5	255.3	15.4	608.1	128.9	276.2	44.5
咸津	151.2	83.6	22.9	30.7	126.2	55.5	148.1	29.8	46.4	57.6	194.5	51.3	97.8	16.4
平均	128.8	44.7	119.3	29.5	132.6	22.2	182.9	27.5	185.6	11.8	368.5	84.3	170.8	43.6

植付時期
中南緯度少

1950-1955

測候地別年別雨量調 (自1月至8月計)

地名	昭和11年	昭和12年	昭和13年	昭和14年	昭和15年	昭和16年	昭和17年	昭和18年	昭和19年	平均	19年05月計 対比較
釜山	1038.0	785.8	1222.2	492.7	1021.6	972.3	757.1	442.0	500.1	1022.7	→ 572.6
大邱	1116.0	600.3	522.2	541.0	618.3	954.4	525.0	568.0	365.1	705.1	→ 370.0
秋風嶺	1078.7	604.0	796.6	303.1	864.2	1178.7	782.4	524.0	518.4	928.8	→ 190.8
木浦	7222.7	631.0	738.2	647.2	807.1	938.4	445.3	508.0	639.3	779.1	→ 160.3
全州	1266.8	878.3	602.0	429.6	745.1	1212.8	1165.1	623.0	771.1	862.6	→ 171.5
京城	1163.2	772.0	783.3	551.8	1919.3	915.6	778.0	404.0	824.3	992.7	→ 117.0
海州	-	-	-	670.6	826.9	1222.8	596.6	510.0	991.8	851.9	→ 123.9
平壤	618.6	798.0	915.7	542.6	651.8	827.5	1050.5	561.0	789.3	787.0	→ 101.8
新義州	771.4	985.3	957.8	671.1	805.4	928.6	722.8	555.0	554.5	834.2	→ 281.7
江陵	1155.6	816.9	665.5	490.5	838.3	1172.2	575.7	496.0	657.5	876.5	→ 227.7
元山	985.1	815.2	856.7	964.7	953.9	1226.5	920.0	484.0	1024.8	950.8	→ 92.5
大津	346.2	372.3	165.4	467.3	315.6	566.3	458.0	532.0	423.5	426.8	→ 162.5
平均	1014.3	736.3	793.6	556.2	864.0	998.2	732.8	518.2	673.7	826.3	→ 152.6

(2) 月別降水量 (mm)

地名	四月		五月		六月		七月		八月		九月		十月					
	本年	平均	本年	平均	本年	平均	本年	平均	本年	平均	本年	平均	上旬	中旬	下旬	平均		
釜山	152.3	411.82	105.8	424.5	26.4	417.37	128.1	416.5	15.6	411.63	336.9	411.6				430.4	18.6	40.7
蔚山	142.5	416.25	61.1	446.9	21.1	413.70	108.9	410.6	52.1	411.2	245.3	414.92	0.3	413.7	11.7	414.0		
大邱	81.2	415.1	52.0	423.4	11.8	427.61	82.4	412.5	71.5	417.90	176.5	413.4	0.2	415.6	4.4	412.8		418.1
秋風嶺	64.4	415.3	42.0	432.8	102.7	430.1	100.4	418.5	156.0	417.0	207.2	415.5		413.2	2.3	412.8		
木浦	51.8	416.5	41.6	438.2	105.3	413.7	154.4	416.7	202.4	413.72	186.0	416.5		413.1	11.3	414.4		
光州	46.4		46.4		69.1		177.0		183.5		179.8					10.4		
全州	46.4	413.0	50.4	428.7	113.3	418.2	269.0	412.38	251.0	411.0	262.2	412.1		412.9	2.6	412.5		
京城	93.1	413.7	73.2	415.5	125.3	414.2	273.2	417.89	214.2	413.5	163.0	413.67	1.2	415.6		414.2		
仁川	50.3	412.52	53.1	428.7	121.3	412.48	157.1	412.36	200.2	417.8	117.2	413.3	1.3	417.5		413.7		
海州	42.2	413.9	85.6	8.3	125.7	414.5	307.2	414.8	335.5	411.51	119.2	412.8		412.1	0.6	412.7		
新幕	36.5	418.8	68.4	412.4	130.0	413.5	242.2	412.5	358.3	411.5.9	135.7	414.9	0.6	412.9		411.3		
平壤	33.1	418.6	39.3	429.9	160.2	418.9	330.7	413.7	174.8	415.1	28.4	413.9	9.5	413.9	1.9	411.9		
新義州	13.7	414.8	31.5	416.4	124.1	415.8	110.6	413.52	126.3	411.62	152.0	413.9	13.1	412.6		416.6		
江陵	174.0	413.5	40.5	412.3	45.5	412.9	139.4	412.9	117.7	410.22	156.4	412.1		412.9		412.4		
元山	91.7	412.7	51.2	413.0	222.6	415.25	255.3	411.6	276.2	412.5	189.6	413.3	0.1	412.1	0.2	412.4		
咸興	32.6		23.1		133.1		110.9		221.5		116.5				0.4			
咸興	33.8	412.2	23.9	412.7	124.2	415.5	26.4	412.6	97.8	416.4	55.5	412.1		410.0	1.0	412.3		
淮基	33.0	414.7	82.3	411.3	54.3	412.9	37.1	413.1	104.9	410.2	239.2	412.7		412.5		412.6		

月別平均気温表

地名	四月		五月		六月		七月		八月		九月		十月			
	本年	平年比	本年	平年比	本年	平年比	本年	平年比	本年	平年比	本年	平年比	上旬		中旬	
													本年	平年比	本年	平年比
釜山	11.7	(+0.6)	16.5	0.0	20.8	(+0.8)	24.5	(+0.6)	26.5	(+1.0)	22.6	(+0.9)	18.1	(+0.1)	16.7	(+0.3)
鮮山	10.3	(+0.7)	16.1	(+0.1)	21.1	(+1.2)	25.2	(+0.7)	26.0	(+1.1)	21.3	(+1.1)	16.2	(+0.1)	14.8	(+1.3)
大邱	11.0	(+1.1)	17.5	0.0	22.9	(+0.9)	26.4	(+0.8)	26.5	(+0.5)	21.3	(+0.9)	15.4	(+1.2)	13.7	(+0.5)
扶風嶺	10.0	(+1.2)	17.2	(+0.2)	21.6	(+0.5)	25.5	(+0.7)	25.0	(+0.3)	20.1	(+0.6)	15.7	(+0.5)	12.2	(+1.5)
木浦	10.9	(+0.5)	16.5	(+0.1)	21.8	(+1.2)	26.0	(+1.2)	26.1	(+0.0)	22.6	(+0.8)	17.5	(+0.5)	16.0	(+0.1)
英州	10.0	-	16.5	-	22.0	-	26.3	-	25.9	-	21.5	-	16.6	-	13.8	-
全州	10.3	(+1.0)	17.0	(+0.7)	22.3	(+0.8)	26.4	(+0.7)	25.5	(+0.4)	21.6	(+1.2)	14.1	(+2.0)	13.2	(+0.5)
京城	9.6	(+1.0)	15.9	(+0.4)	21.4	(+0.7)	25.3	(+0.6)	25.5	0.0	20.7	(+0.6)	14.9	(+0.9)	13.5	(+0.3)
仁川	9.3	(+0.3)	14.8	(+0.1)	20.2	(+0.6)	24.6	(+1.0)	25.4	(+0.5)	21.2	(+0.9)	16.0	(+0.3)	14.3	(+0.1)
海州	9.8	(+0.4)	14.5	(+0.5)	20.4	(+0.4)	24.6	(+0.3)	24.7	0.0	20.9	(+0.9)	15.1	(+1.3)	13.3	(+1.2)
新幕	8.7	(+0.3)	14.9	(+0.1)	20.4	(+0.7)	24.8	(+0.5)	23.6	(+0.6)	19.1	(+1.0)	11.9	(+2.3)	10.1	(+2.2)
平壤	9.6	(+0.2)	15.6	(+0.1)	20.9	(+0.3)	25.2	(+1.1)	24.0	(+0.4)	19.8	(+1.0)	12.1	(+1.3)	10.8	(+1.2)
新義州	9.4	(+1.0)	14.1	(+0.8)	20.0	(+0.1)	24.5	(+0.5)	24.1	0.0	19.5	(+0.8)	12.9	(+1.6)	11.4	(+0.4)
江陵	10.0	(+1.3)	16.8	(+0.4)	21.3	(+1.0)	25.0	(+0.8)	24.6	(+0.1)	20.2	(+0.5)	16.0	(+0.3)	12.7	(+1.9)
元山	9.4	(+0.1)	15.6	(+0.7)	20.0	(+0.9)	24.0	(+1.2)	23.3	0.0	19.8	(+1.0)	14.6	(+0.4)	11.8	(+1.3)
咸興	8.0	-	15.1	-	19.8	-	24.0	-	23.0	-	19.8	-	13.3	-	10.5	-
咸津	1.6	0.0	12.8	(+1.9)	16.5	(+1.2)	20.6	(+0.5)	21.7	(+0.4)	18.4	(+0.6)	13.6	(+0.3)	11.0	(+1.0)
雄基	5.3	(+0.1)	11.8	(+1.8)	15.9	(+1.7)	20.7	(+1.5)	21.9	(+0.8)	17.3	(+0.6)	12.2	(+0.9)	10.3	(+0.1)

研-0656

初霜並初氷調査表

地名	初 霜				初 氷			
	本年	前年比	平年比	摘要	本年	前年比	平年比	摘要
蘇山	10月13日	早 17日	早 14日	創立以来早現/新記録				
秋風嶺	10月13日	早 10日	早 5日	創立以来第二位/早現				
光州					10月14日	早 30日	早 18日	
全州	10月13日	早 13日	早 2日		10月14日	早 28日	早 17日	創立以来早現/新記録
京城	10月13日	早 14日	早 2日		11月9日	早 1日	晩 15日	
仁川	10月14日	早 28日	早 19日	創立以来第二位/早現				
海州	10月11日	早 10日	早 2日	創立以来早現/新記録				
新嘉	10月1日	早 12日	早 8日		10月10日	早 17日	早 9日	
平壤	10月10日	早 12日	早 2日		10月13日	早 13日	早 7日	
新義州	10月9日	早 12日	晩 3日		10月12日	早 10日	早 6日	創立以来早現/新記録
江津	11月10日	晩 2日	晩 2日					
元山	10月11日	早 20日	早 13日		11月9日	早 1日	晩 9日	
蔚山					10月13日	早 18日		
咸陽	10月13日	早 18日	早 16日		11月4日	早 2日	晩 7日	
確基	10月11日	早 11日	早 5日		10月21日	早 2日	早 1日	
天谷	10月10日	早 17日						
長新	10月14日	早 30日						
大田	10月13日	早 10日						
尚州	10月10日	早 18日						
浦項	10月13日	早 19日			10月13日	早 30日		

豊凶考照試験ニ依ル一種粒数調査 (朝鮮總督府農業試験場裡里支場)

品種名	一穗粒数				稔実粒数				不稔実粒数				不稔割合				
	昭和16年	17年	18年	19年	昭和16年	17年	18年	19年	昭和16年	17年	18年	19年	昭和16年	17年	18年	19年	
日出	66.7	102.0	-	76.1	56.1	92.0	-	68.8	10.6	8.0	-	5.3	15.9	-	28	-	7.6
無芒愛国	68.0	82.0	117.7	75.3	64.2	79.0	92.6	68.6	3.8	8.0	20.1	6.7	5.6	7.2	20.6	-	7.8
中生銀坊主	65.7	64.1	94.1	77.5	62.1	62.0	72.6	72.6	3.6	4.1	21.5	4.7	5.5	6.4	29.6	-	6.5
都良部	83.5	83.9	91.6	73.4	80.0	81.0	77.7	69.7	3.5	2.9	13.9	5.7	4.2	2.4	12.9	-	5.3
多摩錦	75.9	82.8	95.5	70.0	72.2	79.3	88.7	65.4	3.7	2.5	6.8	4.6	4.9	4.2	7.7	-	7.0
早生神力	63.9	73.5	81.8	77.9	57.7	70.3	75.7	74.9	4.2	3.2	6.1	7.2	6.6	4.8	8.1	-	9.6
銀坊主	65.3	85.3	97.9	82.9	61.8	79.5	82.5	78.0	5.5	5.8	14.4	5.9	5.4	6.8	17.2	-	7.6
石山祖	80.0	90.6	113.3	82.4	75.2	81.3	91.2	75.5	4.8	7.3	22.1	7.0	6.0	10.3	24.2	-	9.3
早熟確町	82.3	82.5	87.5	81.4	76.6	79.7	77.5	70.4	6.7	2.5	10.0	7.0	6.9	3.4	7.9	-	7.4
豊玉	78.9	67.3	87.7	94.0	75.4	63.9	82.0	84.2	3.5	5.4	7.7	9.8	4.4	5.1	9.4	-	11.6
瑞光	72.0	74.4	72.7	56.9	66.0	70.8	68.6	53.4	6.0	5.6	4.3	3.5	8.3	4.8	6.3	-	6.6
平均	72.9	81.2	94.2	77.0	68.1	76.4	81.5	71.5	4.8	5.0	12.7	5.9	6.7	6.0	14.7	-	8.2

冷水旱害影響

秋

新粟(大豆)小豆粟稗 蜀黍 玉蜀黍 蕎麥 燕麥 甘藷 及馬鈴薯
豫想收穫高

大豆小豆粟稗 蜀黍 玉蜀黍 蕎麥 燕麥 甘藷 及馬鈴薯ノ
各雜穀豫想收穫高ヲ調査セルニ播種當時ヨリ六月中旬迄
全鮮ニ亘リ降水量少ク氣温ニ北鮮地方ヲ除キ稍低溫裡ニ
推移セル為發芽後草丈ノ伸長悪ク概テ不良ナリシ其ノ
後八月中旬迄ハ中北鮮地方ニ於テハ適雨ニ惠ミレ氣温ニ上昇
セルヲ以テ生育漸次回復シ殊ニ主要生産地ハ西北鮮地方ニ於
テハ例年ニ見ガル良好ニ生育ヲ遂ゲ一時ハ豊作ヲ予想セラ
レタル處 中西鮮地方ノ一部ニ水害アリタルノミナラス 八月末ヨリ
九月中旬迄ノ間 連日ニ亘ル降雨ト日照不足ノ結果 粟ハ勿
論其他ノ雜穀ニアリテモ 澇害ヲ蒙リ 加之十月ニ入リテノ低

温ハ愈々生育阻害ヲ招來シ 結實不能乃至稔實不充分
ニ陥リタルノ數カラス 南鮮地方ニ於テハ 播種期前後ニ極
引降雨量少キ為播種期遅延シ且發芽不良 不齊ナル
モノ多ク再播ス追播ヲ行フ等 萬全ノ策ヲ講ジタルニ引續キ
寡雨ノ為生育概テ不良ニシテ 就中水稻ノ代作物ハ生育
特ニ悪ク折角確保シテ面積中ニ相當廢作セルモノヲ生シ
殊ニ主ナル代作物タル粟 蕎麥ニ於テ其ノ作況極テ不良ナリ
尚九月ニ入リテハ霖雨ハ必ガ生育ヲ一層悪化セシメタリ
要之調査ノ結果ハ全般的ニ辛シク平年作ヲ維持スル
ヲ得タリ

二) 友當收量(合) (甘藷馬鈴薯ハ賈)

備考	計	咸北	咸南	江原	平北	平南	黄海	慶南	慶北	全南	全北	忠南	忠北	京畿	道名
	四四四	五二七	四六〇	四〇七	五四六	四九七	五二六	二四三	二〇三	四一五	四三二	三八一	四〇五	四三七	大豆
	三五八	四〇七	三〇五	三三八	三六一	三二八	四三六	二五〇	二〇六	三〇六	三一一	三三〇	三三一	三三七	小豆
	五七八	七六九	七〇九	四二〇	七三三	六九〇	五四二	四〇九	三三八	五五三	五〇〇	四六六	四三三	五三七	粟
	七〇八	八〇七	八六八	三六三	六二八	一〇五一	六〇五	五〇〇	三〇九	三三三	二六六	三三六	三三三	五〇三	稗
	八〇四	八三七	七五一	五四〇	八七八	八八〇	八四九	三五〇	二七八	五三二	五〇〇	三九九	五〇〇	五三三	蜀黍
	五四八	七〇一	七二五	四〇三	五七九	五三八	五三六	三三三	三三七	四四八	四三五	四七一	四三四	五三三	玉蜀黍
	三三八	三六四	四八五	三六四	三〇〇	四六四	五六六	三八一	三三六	四五四	二七七	三六九	三三三	五三三	蕎麥
	四三八	二九四	四七五	三五〇	四六〇	四六〇	四六〇	一九一	一九一	四四八	四〇八	四〇八	四〇八	四二六	燕麥
	一七三	二二六	一五〇	二〇九	一九九	二二六	一五九	七六	七六	三三九	三五九	一五七	一七〇	一八七	甘藷
	二四六	一七九	一〇一	一三〇	二二四	二二四	一四八	一〇九	一〇九	一四八	二一八	一四九	一六六	一六四	馬鈴薯

備考	計	咸北	咸南	江原	平北	平南	黄海	慶南	慶北	全南	全北	忠南	忠北	京畿	道名
	三三三	五五七	三〇六	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	大豆
	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	小豆
	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	粟
	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	稗
	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	蜀黍
	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	玉蜀黍
	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	蕎麥
	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	燕麥
	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	甘藷
	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	馬鈴薯

二) 友當收量(合) (甘藷馬鈴薯ハ賈)

雜穀道別種類別豫想收穫高

收穫高(稻穀換)

	大豆	小豆	粟	稗	蜀黍	玉蜀黍	蕎麥	燕麥	小計	甘藷	馬鈴薯	小計	合計
	石	石	石		石	石	石	石	石	石	石	石	石
京畿	245,116	14,696	74,131	949	17,674	9,312	15,411	253	397,542	5,582	42,908	123,490	501,032
忠北	85,650	9,571	296	-	5,937	3,130	12,682	-	164,246	18,695	45,551	64,246	228,492
忠南	92,920	10,114	18,138	16	6,182	1,159	13,287	14	141,830	50,414	206,715	71,089	212,919
全北	120,154	10,211	59,991	6	3,522	5,841	13,996	-	213,724	137,616	19,008	156,624	370,348
全南	125,570	11,685	151,142	308	3,892	1,872	50,744	-	345,213	227,013	9,232	236,245	581,458
慶北	87,924	4,947	160,549	2,308	1,652	4,274	32,896	777	295,267	14,914	50,757	65,671	360,938
慶南	65,019	3,516	31,296	3,982	7,080	2,179	16,358	-	129,430	81,401	21,068	102,476	231,905
黃海	387,831	185,786	279,775	2,084	60,699	89,604	64,165	-	1,169,944	212,364	62,329	274,693	1,444,637
平南	210,499	136,302	316,250	8,293	169,876	212,111	73,874	127	1,120,332	98,162	70,010	168,172	1,295,504
平北	464,625	104,552	319,008	17,892	95,770	508,356	38,698	-	1,549,382	47,372	57,468	104,840	1,654,222
江原	238,794	39,634	150,202	7,652	8,724	136,567	54,641	990	639,204	15,870	15,958	261,828	899,032
咸南	302,601	43,244	239,405	52,338	36,114	95,367	61,207	52,261	882,537	80	640,745	640,825	1,523,362
咸北	205,736	31,308	208,104	19,923	37,520	84,787	6,521	5,062	688,898	15	171,717	171,732	860,630
合計	2,722,440	605,566	2,154,267	115,731	454,642	1,155,059	455,480	59,364	11,722,549	934,504	1,457,426	2,441,930	10,164,479

研-0656

米ノ作況

三ノ年田ノ早播 亦之五ノ月ノ雨等ワ

五月一杯ニ播種中ニ於テ收穫定ム

六月下旬迄始下中ナシ

八月又ハニニ早ナシ

早播早播 收穫早矣

七八月ニ水害

昔ノ栽培法 田北 芳海 平海等ニ 此ノ水

三ノ年ニ三ノ年ノ概 播種ニ三ノ年ノ概

水害 五ノ年ノ概

早播 一三〇万石

九月一ノ月ノ早播 收穫早矣

由後運ル 收穫早矣 亦之五ノ月ノ雨等ワ

大日本帝國政府

其ノニ実ナシカ

十月 十月十日 水 耕ニ中野地ニニニニニニニ

由後助ニニニニニニニ

由後助ニニニニニニニ

由後助ニニニニニニニ

由後助ニニニニニニニ

由後助ニニニニニニニ

由後助ニニニニニニニ

(新ノ年ノ早播早播早播)

理事官

一九二六年

(一) 水 稻

最近ニ於ケル朝鮮ノ水稻其他ノ作況

本年ノ水稻植付ノ狀況ハ西北鮮地方ハ概ネ順調ナリシモ主要産米地帯タル中兩鮮地方ニ於ケル用水不足ノタメ例年ニ比シ著シク遅延シ七月末現在ニ於テ植付決定面積ノ八一五%ニ過ギズ約三〇萬町歩ノ植付不能ノ水田ヲ生ズルニ到レリ

植付後ノ作況ハ六月乃至七月ニ於ケル雨量ハ中兩鮮地方ニ於テ平年ニ比シ甚ダシク寡少ナリシタメ生育阻害セケレタルノミナラス八月中ノ雨量モ兩鮮地方ハ依然トシテ少ナク特ニ慶尙兩北兩道ノ如キハ一五耗乃至七〇耗程度ナリシタメ兩道ニ於ケル旱害ハ最も激甚ニシテ現在用水枯涸セルモノハ七割乃至八割ニ達シ

シ五割ハ白乾龜裂ヲ生ジ植付ケタルモノモ漸次枯死又ハ枯死ニ瀕セントスルノ狀態ニアリ

又七月中旬ニ於テ中鮮地帯ニ又八月中旬ニ於テ黃海道ニ襲來セル短期間ノ豪雨ニヨル水害ハ相當激甚ニシテ被害亦尠カラズ之等ノ被害面積ヲ合算スルトキハ流失埋没ノ面積ハ一八八〇〇町

浸水面積ハ四六〇〇町ニシテ合計六四八〇〇町ニ達セリ

之等ノ旱害竝ニ水害ニ依ル減收見込ハ概ネ一八〇萬石程度ニシテ本年産米ノ作況ハ各級ノ狀況ヨリ推算スルニ稍不良ニシテ之ガ收穫額想ハ略一七〇〇萬石程度ト認メラル

(二) 麥 類

適期播種ガ徹底セフレ發芽齊一ニシテ生育概ネ良好ナリシガ一

規格一B 4 (東京 8.186)

月以降四月迄降水量ハ極度ニ減少ナリシ爲相當乾害ノ現象ヲ呈シタルカ官民總動員ニテ肥培管理ニ萬全ヲ盡シタル效果ト四月以降連雨ニ惹マレタル結果生育者シク恢復シ收穫期ニ於テ平均作(精穀八六四六千石)ニ比シ七三二千石(精穀)ノ增收ヲ豫想セラレタリ

(三) 雜穀及ニ薯類

播種當時ハ全辟的ニ降水量減少且氣温モ概シテ低溫ニシテ生育小良ナリシカ其ノ後主要産穀地帯ナル西北僻地方ニ相當量ノ降雨アリテ生育回復セルヲ以テ目下ノ處西北僻地方ノ作況ハ良好ニシテ南僻地方ハ不良ナリ之ヲ全辟的ニ觀レハ良好ナリト思料セラル

大豆粟ノ作況ハ目下取鑑中ナルカ南僻地方ニ於テ不良西北僻地方良全辟的ニ觀テ大豆「良」粟「稍良」程度ト認めララル尙薯類ノ作況ハ西北僻地方ヲ主體トスル馬鈴薯ハ多雨ノ爲普通ニシテ甘藷ハ南僻地方ヲ主産地トスルヲ以テ不良ト認めララル

規格一B 4 (東京 3.185)

昭和十九年八月二十八日

一九二六年

初野吉村 抄

水 稻 作 況

氣象

極 秘

昭和十九年度水稲作況

一、植付済面積

本年度植付済定面積ハ一六二二八二七町ナリシガ昭和十七年以降毎
年水豊少ク早稲ニ終始シ從テ前年以來ノ植付済越用水乏シク且地中
水位低下シ居リタルニ拘ハラズ本年度ニ在リテモ引續キ降雨稀少ナ
ガ殊ニ主要米産地帯タル中、福地地方ニ於テ著シク雨量少カリシヲ以テ
本年度植付ハ豫定面積ノ八割一分五厘即チ三二二四八町ニ過ギサル

狀況ナリ

二、生育狀況

目下ノ水稲生育狀況ハ例年ニ比シ穂孕出穂等著シク遅延、不揃ニシテ
且作柄區々ニシテ其ノ作況「稍不良」ト認メラル

三、植付期ノ遅延

本年ノ水稲植付有効雨量タル五月ヨリ七月迄ノ餘水豊ヲ見ルニ西
地方ヲ除キ一般ニ少ク特ニ主要米産地帯タル福地以南ノ中雨

1.622.827 4号
1.322.148
299.777

活乃至三〇〇活程度ノ豪雨襲来シ浸水三日間ニ亘リタルモ折柄穂孕期或人出穂直後ナリシ爲相當被害アルモノト認めラル尙右ノ流失、
(2) 運没面積五四三二町浸水面積一九五五八町ナリ

(四) 販賣肥料施用ノ減少

水稻ニ對スル本年ノ肥料施用ノ量ハ窒素ニ於テ大体四萬三千噸ニシテ昨年ノ五萬二千噸ニ比シ約二割ノ九千噸減少シ磷酸ハ四千噸ニシテ昨年ノ一萬七千噸ニ比シ其ノ約四分ノ一ニ過ギザル狀況ナリ依テ之ガ配給ニ當リテハ水利安全畚等ニ重點配給ヲ爲シテ肥料ノ施用効果ヲ最大限ニ發揮セシムルコトト致シタルモ絶對量ノ減少ハ水稻ノ生育ニ影響スル處少カラザルモノアリト認めラル

植付認定面積並植付済面積

道名	植付認定面積	七月三十一日現在
京畿道	一九五、一三三	九〇七
忠清北道	六七、八〇六	七六六
忠清南道	一五七、二七五	七九五
全羅北道	一六三、七〇八	八二三
全羅南道	一九八、〇六八	七四六
慶尙北道	一八三、五一三	四四三
慶尙南道	一六三、七二九	七六四
黃海道	一四七、八八〇	九六五
平安南道	八〇、八二四	九六〇
平安北道	九三、七六九	一〇〇〇
江原道	八六、六一九	九五二
咸鏡南道	六六、四二七	九八六
咸鏡北道	一八〇、七三五	一〇〇〇
合計	一、六二二、八二二	一、三三三、〇七八

水稲期別植付済割合

年月日	植付済割合	植付済面積
六月二十日	六二	一、〇〇〇
六月三十日	六三	一、〇〇〇
七月十日	六四	一、〇〇〇
七月二十日	六五	一、〇〇〇
七月卅一日	六六	一、〇〇〇
作付反別	六七	一、〇〇〇
収量	六八	一、〇〇〇

同
抄
本

水稻植付有効降水量

	五月		六月		七月		八月		計	
	本年	平年=對 比増減	本年	平年=對 比増減	本年	平年=對 比増減	本年	平年=對 比増減	本年	平年=對 比増減
京城	73.2	-15.5	125.3	4.2	273.0	-98.9	212.0	-47.0	683.8	-157.2
秋風嶺	42.0	-37.8	102.7	-30.1	100.4	-68.5	84.3	-102.7	529.4	-239.1
全州	50.4	-19.7	118.3	-8.2	269.0	-23.8	194.5	-73.5	652.2	-125.2
木浦	51.6	-38.2	105.3	-31.7	154.4	-46.7	111.3	-57.7	422.6	-774.3
大邱	52.0	-22.4	51.8	-76.1	82.4	-125.3	71.0	-102.0	257.2	-25.8
X釜山	105.8	-14.5	26.4	-173.7	129.1	-156.5	14.7	-169.3	275.0	X-144.0
海州	85.6	8.3	175.7	44.5	337.2	-70.8	329.0	206.0	927.5	188.0
平壤	39.3	-29.9	160.2	85.9	330.7	89.7	161.5	-157.5	691.7	-778
新義州	91.5	-64	174.6	57.2	110.4	-135.2	75.5	-206.5	452.2	-290.9
江陵	45.5	-27.3	45.5	-52.9	139.4	-92.9	41.7	-199.5	272.1	-372.4
元山	51.2	-39.0	272.6	152.5	285.3	15.4	167.5	-157.5	776.6	-28.6
城津	23.9	-39.7	124.2	55.5	46.4	-57.6	94.3	-67.7	288.8	-109.5
備考	8月125日迄入									

測候地別年別雨量調 (自一月調)

地名 年別	新藤州	平壤	海州	京城	全州	木浦	釜山	秋風嶺	大邱	江陵	元山	城津
昭和11年	771.4	618.6	-	1163.2	1266.8	1222.7	1438.0	1078.9	1116.0	1150.6	985.1	346.2
" 12年	985.3	798.0	-	792.0	898.3	631.0	785.8	604.0	600.3	816.9	815.2	372.3
" 13年	957.8	915.7	-	783.3	602.0	738.2	1229.2	796.6	-	665.5	856.7	665.4
" 14年	671.1	542.6	670.6	551.8	429.6	649.2	492.9	303.1	341.0	590.5	964.7	467.2
" 15年	805.8	651.8	826.9	1919.3	745.1	807.1	1021.6	864.2	618.3	838.3	953.9	315.6
" 16年	738.6	827.5	1226.8	915.6	1212.8	938.4	973.3	1178.7	794.4	1179.2	1226.5	566.3
" 17年	732.8	1050.5	596.6	778.0	1165.1	445.3	757.1	789.4	525.0	575.7	920.0	458.0
" 18年	555.0	561.0	510.0	404.0	623.0	508.0	447.0	524.0	569.0	496.0	484.0	537.0
" 19年	503.9	776.0	1015.3	822.2	714.6	537.2	529.6	364.3	581.3	916.1	389.1	389.1

備考 昭和19年、8月25日迄トス

11月、12月、13月

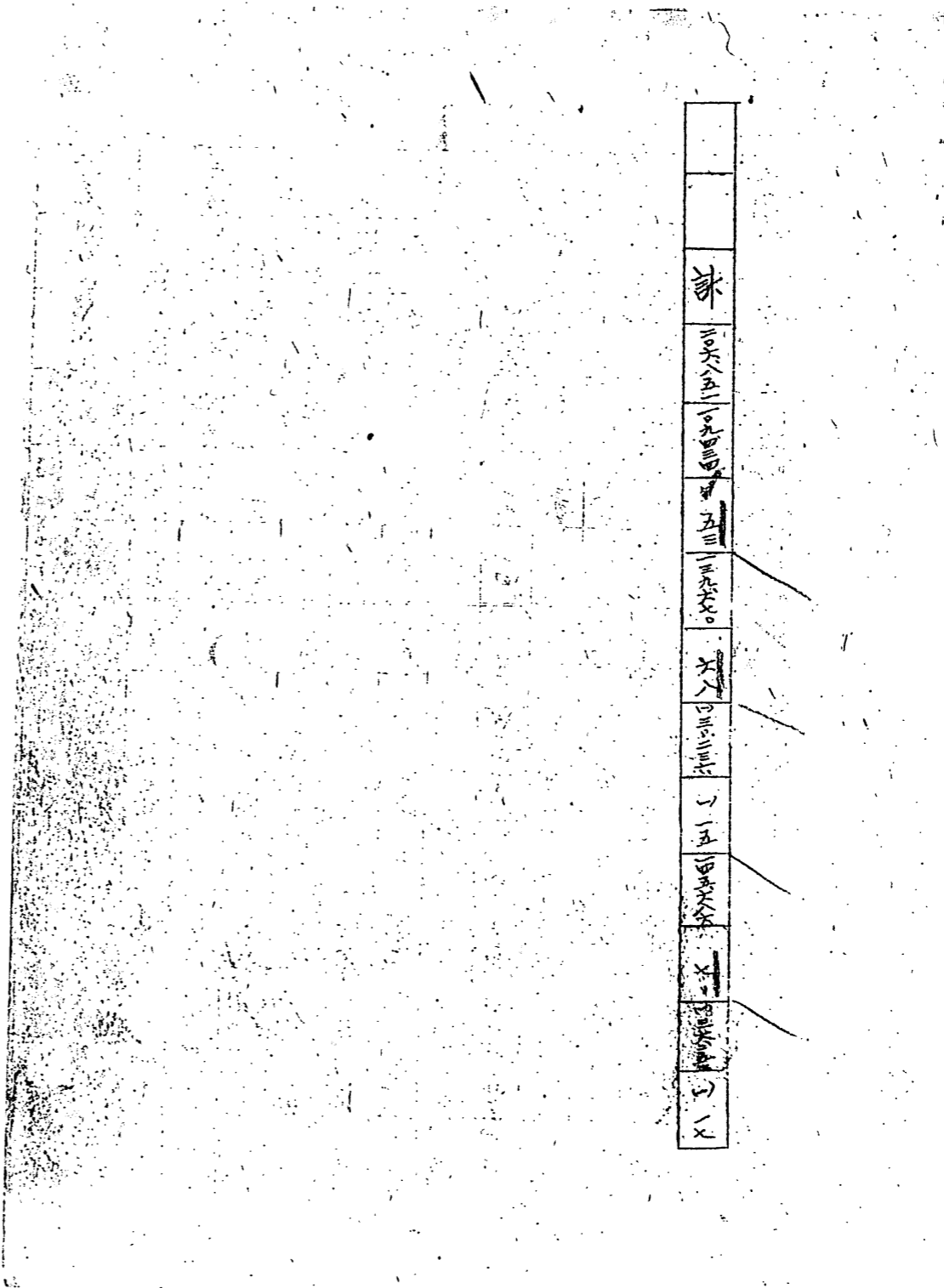
測候地別年別雨量調 (年計)

年別	地名	新義州	平壤	海州	京城	全州	木浦	釜山	大邱	江陵	元山	城津
昭和11年		1166.9	1964.8	-	1537.6	1658.8	1619.5	1673.6	1423.5	1767.5	1448.4	235.7
" 12年		1132.3	1913.5	-	1063.0	1250.9	956.7	1154.8	814.0	1113.9	1103.4	453.5
" 13年		1179.0	1123.2	-	1059.0	828.5	965.8	1389.6	961.0	1103.5	1093.3	824.5
" 14年		1036.9	789.2	923.4	639.3	672.3	802.1	804.0	587.7	745.5	1229.9	714.5
" 15年		1031.0	988.7	1051.0	2135.1	1045.3	1279.4	-	1884.6	1192.5	1177.8	478.1
" 16年		1102.5	997.9	1017.3	1093.1	1438.2	1053.7	-	1008.0	1605.4	1470.2	772.2
" 17年		935.0	1222.4	851.6	1131.0	1465.1	669.3	1038.1	865.0	940.9	1208.3	577.9
" 18年		764.0	905.0	662.1	647.0	899.0	816.0	1000.0	736.0	971.0	912.0	738.0
" 19年		503.9	976.0	1015.3	822.0	714.6	537.2	529.6	364.3	581.5	916.1	388.1
備考		昭和十九年八月二十五日迄										

成南	江原							平北		平南		道名 組合名
	金化	中央					同仁	龜城	大正	慈山	順南	
富津堤	蔚山堤	竹谷堤	馬山堤	蓮花堤	魚龍堤	廿七堤	同仁堤	豐山池	大鰐池	慈母堤	花里堤	野池
四三九五	三三九九	四三三七	一三九三	四三三八	五五二	一三九二	六〇八八	四三〇〇	一〇九四	三三三八	三三三三	野池
四三九五	三三八二	四三三三	一三八三	五五五	七九一	四四一一	四九八一	三九八一	七三〇	三三九一	六四三三	野池
一〇〇	一〇〇	九九	八四	一三六	七九一	八二	九五	八四	六六	八四	六四	野池
三三〇	一八九	三三四	一八三	八二〇	三三〇	一三三〇	四〇五〇	三三六一	八九〇	三三三八	三五五	野池
八二	八三	七一	一四	五五	四二	六二	九四	八一	一〇〇	一〇〇	九七	野池
七四二	一〇三八	一〇二九	九〇	一〇二五	一〇二一	九四一		一〇四九	一〇一六	一〇四九	一〇三三	野池
一八	一〇二七	一〇二八	七〇	一〇一八	一〇二八	一六		一〇一四	一〇一四	一〇一三	一〇三三	野池
三九五	三三五〇	三三三	五七三	九九四	三三五	四四九	三三六	七三九	七三九	三三九五	八六八	野池
八九	九四	八五	四四	六五	四一	七三	八七	九一	九一	八八	八八	野池
四三二	一三三	六一	五〇	四三	一四六	五三三	五三三	一〇一六	一〇一六	一〇一六	一〇一六	野池
一一	六	四〇	二八	二八	二八	九	八					野池

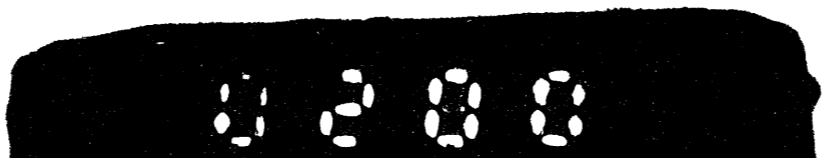
黄海					慶南							
歡	翠野		延白		泗川	固城	慶南		臨湖池			
湖水堤	長春堤	翠野堤	五澤堤	禮義池	第ニ	第ニ	大岩池	斗良池	大河池	大天池	鳳山池	臨湖池
五八五	一五三三	二四〇六	四三五四	六三四	三九九〇	二三四	一〇五五	五六〇	一三三八	七二	五五	一〇八
三九五	一三三三	九一〇	一四〇	一〇〇	五八六	五五〇	一〇六	五六〇	一三三四	四四一	四八八	五七
六三	八五	一三六	一四四	一七	二〇〇	二二	九三	一〇〇	九	六三	九七	一五三
四四〇	八五九	三九五	四二四	五五	一五三三	四〇〇	八一	四四	八八	二二	四九五	一五
六五	一五九	九二	九四	五六	一五	一三	七九	七九	六一	一一	九八	一四
三五	三六二	一〇三	一〇三	一〇三	一〇三	一〇三	一〇三	一〇三	一〇三	一〇三	一〇三	一〇三
四四〇	一〇三	一〇三	一〇三	一〇三	一〇三	一〇三	一〇三	一〇三	一〇三	一〇三	一〇三	一〇三
六六	一六八	九一	九三	六六	六六	六六	六六	六六	六六	六六	六六	六六
一〇三	一〇三	一〇三	一〇三	一〇三	一〇三	一〇三	一〇三	一〇三	一〇三	一〇三	一〇三	一〇三
一〇三	一〇三	一〇三	一〇三	一〇三	一〇三	一〇三	一〇三	一〇三	一〇三	一〇三	一〇三	一〇三

研-0656



詠
三六八五
一七四〇
五三
三六九〇
六八
四三三三
一五
四三三三
六八
四三三三
一七

研-0656



昭和十九年卜昭和十八年及既往五箇年間の平均卜比較(七月末現在)

道名	組合名	貯水池名	計画貯水量	昭和十九年貯水量	昭和十八年貯水量	昭和十九年卜比較	既往五箇年間の平均貯水量	昭和十九年卜比較
京畿	豊徳	五葎池	三二四九	三二四九	三〇〇〇	一〇〇%	三二四九	一〇〇%
		長庚池	三〇〇八	三〇〇七	一〇〇〇	一〇〇%	三〇〇七	一〇〇%
水竜	麗川池	麗川池	六六九	一六四	一〇〇	一〇〇%	一六四	一〇〇%
		新笠池	四九六	九〇	三〇〇	一〇〇%	九〇	一〇〇%
永北	山川里	山川里	七二三	七二三	一〇〇	一〇〇%	七二三	一〇〇%
		自逸里	一四二	一四二	一〇〇	一〇〇%	一四二	一〇〇%
忠北	忠州	虎岩堤	三八九	一六三	七四	一〇〇%	一六三	一〇〇%
		大堤	八四	八四	一〇〇	一〇〇%	八四	一〇〇%
忠南	江外	蓮堤	三七一	三七一	一〇〇	一〇〇%	三七一	一〇〇%
		東部池	三六九	一五	三	一〇〇%	一五	一〇〇%
道高	道高池	道高池	一五三七	六二〇	二四〇	一〇〇%	六二〇	一〇〇%
		洪公堤	九八一	二九三	三三六	一〇〇%	二九三	一〇〇%
温帯	温帯	温帯	九八一	二九三	三三六	一〇〇%	二九三	一〇〇%
		温帯	九八一	二九三	三三六	一〇〇%	二九三	一〇〇%

道名	組合名	貯水池名	計画貯水量	昭和十九年貯水量	昭和十八年貯水量	昭和十九年卜比較	既往五箇年間の平均貯水量	昭和十九年卜比較
全北	全北	庚川池	七六八五	八三三	六二九四	一〇〇%	八三三	一〇〇%
		大雅池	六七一	四二四	六三四五	一〇〇%	四二四	一〇〇%
東津	東津	蟾津堤	二〇三三	九六二	四八二	一〇〇%	九六二	一〇〇%
		菱堤	二二八七	三〇	九四九	一〇〇%	三〇	一〇〇%
進鳳堤	進鳳堤	進鳳堤	五五一	二九	五五一	一〇〇%	二九	一〇〇%
		興徳池	四二〇	一	一六二	一〇〇%	一	一〇〇%
石岡池	石岡池	石岡池	二四〇	一七〇	一七〇	一〇〇%	一七〇	一〇〇%
		佛甲堤	三九八	一八六	二四八	一〇〇%	一八六	一〇〇%
多侍	多侍	白竜池	一三二	二	八三	一〇〇%	二	一〇〇%
		霞谷堤	二四七九	一〇八	二四四〇	一〇〇%	一〇八	一〇〇%
安東	安東	深谷堤	一三四	二二	七八二	一〇〇%	二二	一〇〇%
		長泉堤	六五	二五	三九	一〇〇%	二五	一〇〇%
西面	西面	幽海池	一〇八	二二	九三	一〇〇%	二二	一〇〇%
		幽海池	一〇八	二二	九三	一〇〇%	二二	一〇〇%

道名	組合名	貯水池名	貯水量	昭和十九年	昭和十八年	昭和十七年	昭和十六年	昭和十五年	昭和十四年	昭和十三年	昭和十二年	昭和十一年	昭和十年	昭和九年	昭和八年	昭和七年	昭和六年	昭和五年	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和一年		
平南	順南	在田堤	三七六三	一〇〇	五〇〇	一八	二二六三	八二	九三	三〇	一八三	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	
		慈母堤	三三二八	六八	八三三	二六	一三三五	四二	二〇六	三〇	二〇六	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	
		大正	一〇九六四	七八〇	七一九六	五四	一八三九	一七	七九三	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇
		豊山池	四二〇〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇
		魚崎堤	五五二	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
		蓮末堤	一五〇三八	八九	五五	一七	三三六	八七	五三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇
		馬山堤	一一九三	九三	一五七	一一	一〇四	八一	六七	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇
		竹笠堤	四三七	一〇〇	一八七	四三	一五〇	五七	三九	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇
		余化	三三九	一〇〇	四三	一九	一八七	四三	一五〇	五七	三九	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇
		安迎	四三九五	三七	七二	一六	一五六	二一	一三四	二二	一三三	二二	一三三	二二	一三三	二二	一三三	二二	一三三	二二	一三三	二二	一三三	二二
富泉堤	二六八五	三七	七二	一六	一五六	二一	一三四	二二	一三三	二二	一三三	二二	一三三	二二	一三三	二二	一三三	二二	一三三	二二	一三三	二二		

道名	組合名	貯水池名	貯水量	昭和十九年	昭和十八年	昭和十七年	昭和十六年	昭和十五年	昭和十四年	昭和十三年	昭和十二年	昭和十一年	昭和十年	昭和九年	昭和八年	昭和七年	昭和六年	昭和五年	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和一年			
平南	延白	厚山池	五〇五	一八	五〇五	一八	二二六三	八二	九三	三〇	一八三	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇		
		大尺池	七一一	二四	五〇	七	三六七	五二	四〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇		
		大河池	一三六八	三五	五〇	七	三六七	五二	四〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇		
		斗良池	五八〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	
		大谷池	一一一四	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	
		第一	二六六五	七三	二二〇	九六	七四	六三	五八	五八	五八	五八	五八	五八	五八	五八	五八	五八	五八	五八	五八	五八	五八	五八	
		第二	三三一四	三九	四七	二〇	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	
		鴉岩堤	二九六九	八〇	四六	一六	三三〇	七	三三〇	七	三三〇	七	三三〇	七	三三〇	七	三三〇	七	三三〇	七	三三〇	七	三三〇	七	三三〇
		禮英池	六三二四	九五	二〇九	三三	五七六	九	七二七	一	七二七	一	七二七	一	七二七	一	七二七	一	七二七	一	七二七	一	七二七	一	七二七
		石潭堤	四三五四	八九	二一〇	三三	五七六	九	七二七	一	七二七	一	七二七	一	七二七	一	七二七	一	七二七	一	七二七	一	七二七	一	七二七
翠野堤	二四〇八	三〇	二七〇	一一	二七〇	一一	二七〇	一一	二七〇	一一	二七〇	一一	二七〇	一一	二七〇	一一	二七〇	一一	二七〇	一一	二七〇	一一	二七〇		
長崎堤	一五二二	八六	四一六	二七	八二四	五九	八六二	五	八六二	五	八六二	五	八六二	五	八六二	五	八六二	五	八六二	五	八六二	五	八六二		
明水堤	五八五三	九二	一五〇	三	五五三	三	五五三	三	五五三	三	五五三	三	五五三	三	五五三	三	五五三	三	五五三	三	五五三	三	五五三		
見竜池	九八六一	四七	一三四	一三	一三四	一三	一三四	一三	一三四	一三	一三四	一三	一三四	一三	一三四	一三	一三四	一三	一三四	一三	一三四	一三	一三四		

販賣肥料消費統計表 (反當施肥量)

年 別	水稲作付反別	全上 反當施肥量	肥料總消費高			反當施肥量
			窒素	磷	鉀	
大正十五年	一、四三、四〇七、三八	一、九〇、四三三、六九	一、一三、六五	三、七、四〇	二、九〇	九、〇〇
同前	一、四四、三〇七、七八	一、九〇、四三三、六九	一、一三、六五	三、七、四〇	二、九〇	九、〇〇
同前	一、三六、二九〇、六一	一、六〇、六三三、四三	一、〇、九三	七、二、五七	二、二九	九、〇〇
同前	一、四六、六二八、八三	一、六〇、六三三、四三	一、〇、九三	七、二、五七	二、二九	九、〇〇
同前	一、四九、三六三、二一	一、三三、八一七、七五	一、二〇、二〇	九、二、四三	四、四九	一、六八
同前	一、五〇、五〇三、一〇	一、六六、六一〇、六九	一、二〇、二〇	九、二、四三	五、五八	二、一五
同前	一、四七、七三六、三七	一、二〇、二七三、一〇	一、〇、二六	六、七、三	五、〇一	二、一五
同前	一、五二、六六五、九三	一、三六、〇七九、二四	一、〇、二六	六、七、三	六、七三	二、一五
同前	一、五四、〇四〇、八五	一、二〇、七六三、四四	一、〇、二六	六、七、三	九、一一	二、一五
同前	一、五三、二三六、三九	一、二二、〇一三、二一	一、〇、二六	六、七、三	一、〇、七五	二、一五
同前	一、五六、八一六、七八	一、九一、七四二、八六	一、〇、二六	六、七、三	一、一、三四	二、一五
同前	一、六〇、四八一、九三	一、二六、四三三、三四	一、〇、二六	六、七、三	一、三、三七	二、一五

昭和十三年	一、六二、四一七、五五	二、三、八五二、一三四	八、六、三四九	一、四、三〇	一、四、三〇	六、六
同前	一、二〇、一九六、六九	一、四、二、四四一、八五	七、九、六〇六	二、〇、四八九	一、七、六八	四、五五
同前	一、六二、六一三、五八	二、一、四〇、四四一、〇	六、九、三二五	二、二、四六九	一、一、三五八	三、六六
同前	一、六三、四二九、六三	二、四、七、九六八、八四	六、二、六五九	二、一、一八三	一、〇、二四	三、六六
同前	一、二〇、四九〇、七九	一、五、六、三九八、四三	三、三、四九六	九、五、七四	一、一、八五	二、一一
同前	一、五〇、五三三、八三	一、八、六、四三三、八三	三、一、九七三	六、〇、九七	九、二二	一、〇、八
同前	一、六二、二三八、二七〇	二、六、〇、〇〇〇、〇〇	三、三、〇〇〇	四、〇、〇〇	七、〇七	六、六

秘

朝鮮ニ於ケル昭和十九年産麥類實収高
 一、實収高總括表 (二〇、二二)

区分	作付面積		收穫		反當		精穀		精穀換算率
	粗穀	精穀	粗穀	精穀	粗穀	精穀	粗穀	精穀	
大麥	七九〇、八七六	七六七、三九五	四八〇、三三七	〇、九七一	〇、六〇八	〇、七六六	〇、六〇八	六〇%	
小麥	三三九、六八五	三三〇、八四七	二六六、一三〇	〇、九〇二	〇、七六六	〇、七六六	〇、七六六	八五%	
ライ麦	五〇、二五四	二三、九八八	一九、〇九一	〇、五七九	〇、四七九	〇、四七九	〇、四七九	一〇〇%	
計	一一二一、七六八	一一〇二、〇〇九	七六六、五三三	二、八五七	二、〇五三	二、〇五三	二、〇五三		

二、生産責任数量及既往實収高ト比較表(精穀換算)

区分	面積(町)	生産責任数量		既往平均實収高		生産率
		(A) 十九年産	(B) 計量数量	(A) 町	(B) 町	
大麥	七九〇、八七六	八〇四、六七〇	二、四四九	九、八二	七、〇一七	二〇〇、七〇六
小麥	三三九、六八五	三六四、七四七	二、七五〇	九、五三	三、四四三	二二八、七三
計	一一二一、七六八	一一六九、四一七	五、一九九	九、六八	一〇、四六〇	四二九、四九

作	收穫高(石)		反當		計
	大麥	小麥	大麥	小麥	
大麥	四八〇、三三七	二、六六二	〇、六二二	〇、七二五	〇、六二二
小麥	二六六、一三〇	二、一六三	〇、六四九	〇、七〇七	〇、六四九
計	七四六、五〇七	四、八二五	一、二七一	一、四三二	一、二七一

秘

昭和十九年秋期道別放産責任数量比較増減表

秘

道名	放産責任数量	前年度	増減	増減率
東京	40,000	35,000	5,000	14.3%
忠北	40,000	35,000	5,000	14.3%
忠南	40,000	35,000	5,000	14.3%
金北	40,000	35,000	5,000	14.3%
金南	40,000	35,000	5,000	14.3%
慶北	40,000	35,000	5,000	14.3%
慶南	40,000	35,000	5,000	14.3%
黄南	40,000	35,000	5,000	14.3%
平北	40,000	35,000	5,000	14.3%
平南	40,000	35,000	5,000	14.3%
江原	40,000	35,000	5,000	14.3%

道名	放産責任数量	前年度	増減	増減率
威南	100,000	90,000	10,000	11.1%
威北	100,000	90,000	10,000	11.1%
合計	1,000,000	900,000	100,000	11.1%

昭三十九年秋期道別放産責任数量比較増減表

研-0656